



門 7 9
 號 4109
 卷 4

茶湯小鏡

茶會亭主方

一茶の湯といへば思ふ所の湯目より應分家内諸
 地好しく掃きさらけられん合杯を飲めしむ
 味して客組三人本みんを肉くき茶内月限と提
 め茶ふも肉茶いなり二三人もくき茶下茶を味
 と茶ふも肉茶いなり二水の将軍茶湯ありとて
 入るむあり数茶者の好茶や熱茶とて茶教茶の
 石政け覚悟なりとてめい
 一茶碗茶入の茶茶を金針茶少茶も茶とて茶の
 好茶と茶の茶茶を茶とて茶と湯茶茶茶茶の
 茶と茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

昭和42年12月12日寄
 和田大作氏贈

一客來之酒中亭勅振のひきまをあらはしむる記
○客の酒中亭へ入一客よあらまう時するを中より
まてお對して布巾をなぐりあらわしむる記
乃袖すの衣弁をさきいひてけしむる記
入あきと一礼して中よりその戸をたてよせて退く也
○客中より酒中亭へ入るをあらわしむる記
氣成つて腹をへんむるをあらわしむる記
合座中へ煮物をつくるをあらわしむる記
道は例の炭をたきぬるをあらわしむる記
と氣をいひあはすの記
○客團へ入るをあらわしむる記

客團勝をいひてさきいひてけしむる記
まわけ一礼して何もかもさきいひてけしむる記
ひきまをあらわしむる記
炭をいひてさきいひてけしむる記
たきぬる記
お酒中亭の環をさきいひてけしむる記
うけて又次またの環をさきいひてけしむる記
まけをあらわしむる記
つとむる記
まてをあらわしむる記
まてをあらわしむる記

て右のひびきを續のきと持参のきとすつて金中にて
水つまれば乃 糸織ちへぬひのきとすつて仕入
なをう金中とすつて金中とすつて金中とすつて
金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と
又あつて金中とすつて金中とすつて金中とすつて
とあけられぬとすつて金中とすつて金中とすつて
をみて金中とすつて金中とすつて金中とすつて
と金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と
返る金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と
出して金中のきとすつて金中とすつて金中とすつて
と金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と

○右のきとすつて金中とすつて金中とすつて金中と
お綴るゝとすつて金中とすつて金中とすつて金中と
白くお綴るゝとすつて金中とすつて金中とすつて金中と

○水漬のきとすつて金中とすつて金中とすつて金中と
あつて金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と
を金中のきとすつて金中とすつて金中とすつて金中と
○水漬のきとすつて金中とすつて金中とすつて金中と
貴方あつて金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と
を金中のきとすつて金中とすつて金中とすつて金中と
皮腹とすつて金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と
すつて金中とすつて金中とすつて金中とすつて金中と

一様殊文ありきあの時かゝる人よかゝりてやあて
て茶のちやう仕舞お扱とてのんそうにまきすく
と茶簾と縁とつゝぬやうふ簾おなまをねとるを
あつぐ一茶の湯めも不恨け心かひぬけり茶簾お扱
流道奥れあひの風流よあらうをねをまきとてふ
見事へ人の人ううめうあつぐへ

○炉中火移つて炭がうれううらふまきとて茶を
とて中ちのちやう湯の縁とて茶と考へまうへり
料理と仕舞とてのんあつぐ湯とて茶と考へまうへり
ろへ一茶の湯めも不恨け心かひぬけり茶簾お扱
扱とて長短す附とて

○茶向後のちやう湯の縁とて茶と考へまうへり
料理と仕舞とてのんあつぐ湯とて茶と考へまうへり
ろへ一茶の湯めも不恨け心かひぬけり茶簾お扱
扱とて長短す附とて

○中ちのちやう湯の縁とて茶と考へまうへり
料理と仕舞とてのんあつぐ湯とて茶と考へまうへり
ろへ一茶の湯めも不恨け心かひぬけり茶簾お扱
扱とて長短す附とて

とすし樹くお抄中居極茶碗より我を多んと置茶
 碗より玉柄抄へ目成付とてやとてけり種れ内茶よ
 玉一礼ありを後先は仕通面事といふ樹をお抄中
 茶碗へあらと入茶碗すぎ件のてく仕通いおあら
 茶入袋茶抄下らとて玉柄抄めとてきく改出
 多あは仕通水とてけり種あへ入仕通蓋玉柄抄を種
 多へ丸合をとてあへて炭を炭種多にとて茶
 てたのた具目果茶多にとてあへて玉合とて樹よとて
 樹のあへて種多へ取玉あを茶のあてされやうよと
 氣と付感とてあへ種多へ入極茶碗あへて炭と
 炭炭らんてとてけりて長火の炭炭炭炭て出件の

こやへ茶をわけ下火とてけり炭と改りてけり種多へお
 入戸とてあへて樹炭亭とて炭とてそれのてけり種多
 種多とて又茶を種多とてあへて炭加へて仕通とて
 てく茶とてけりてあへて茶とて一礼して仕通あへて
 けり茶とて樹の茶氣とてんめてとて茶茶茶とてけり
 茶茶茶とてけりてあへて茶とてけり茶茶とてけり
 あへて茶茶とてけりてあへて茶とてけり茶

△客方之免

△五七目を茶と茶内茶とてけり一礼はひへ極茶
 けり湯あ目よは浴尻と切とてあへてけりてけり茶茶改
 茶茶茶とてけりて下十種茶とてけり茶とてけり

るむる

△新田おち中へ合意明々亭のふらふ人の入
あ合統中亭といふ相抄の方より何れも入らば
何れも是より目にはつるに肉をぬきやせぬ事
合意すべし

△外路地めて肉を獲るて入一屋のりてひるを
系よ氣と対應感として一やよりひていふ思
る亭のりたぬきと感一氣の亭とていふ思
る亭のりたぬきと氣と対應くむる思ふ思ふ
と氣のりたぬき

△中より明亭より出た時中へ一れおちのおち

いしておちよりいふ上よりいふ下よりいふ
入るを掃きうへていふ人氣と対りあけいふ
張をいふなりとていふ又中へいふ上より
いふ水は白きとていふ力強へいふとていふ
れとていふとていふとていふとていふと
と改題へ入

△其冬ふ一人氣にちるありのさあささあ
あうけ入るありのあうけいふとていふ
△先年よりいふ春国へいふとていふ
と対り外と井張る人子氣とていふとていふ
改められはるるあうけいふとていふ

ら作付の此建をおる戸ありお座敷と対面
お敷きと床より威一市より意をさる

△お座敷よりさるる亭主系はほど此件のことく
床より礼をお熱れお扱して登とあけらるる時にお
炉中とん炭の残りと腰板より火移りてお扱
し居る也

△楓炭を仕置たるおとらぬるる時番箱とあら
るるるる事

△番箱亭主へおとらぬるる時におとすへお
しりあはれとて此件のおお見おら仕置は亭
主よりあつて登とけりて仕置あらるるれは

のるるるるめてへ番箱と腰板腰板にて此
見合事をおるお亭よりおとらぬるる一也

△亭主通は引丸は白かつと玉返しは明後
をさるる後と指出はけりともあはれめて受
後よりお何とて同とてぬる

△食神は大神を二度と心は二家の事をよけけ
給仕置は食み汁かりたりと足合中お出るるを後
亭主への御礼をおるおとて今お湯神おとら
けと上げへうるるおと一府へ足合をよと後
お扱してあらるるるるる湯酒をぬるる後
△湯盆は湯とつと水つとぬるる湯上あらのおへおと

先湯をついでぐうとやりあつた時湯へあつて煮えて
ゆらりて湯と絡つくへに終り茶の鼻紙めて拭ひ終り
おろふおろふやうに湯をけりて入るへて煮えりて
煮いぬるもの也

△茶菓子出給へ終り勿論鼻紙めて漢女上家の
方より口へ中合をかきひくと末座よりけりて何
と云ひぬるもの也

△菓子出て今一茶湯懸おん一茶とて上座あつて
うけ抱ひてゆきあつてはさるる茶出とて出らるるお供
相お二茶より別かけお入氣と付茶あつて一人お
出ふおれとてあつて出る時一人おあつてわく

をぬてるふ不及

△中座して茶の杯の歌ひて感へて中座して茶の
名のお名なと見えし極おの仕振見越とてお氣と付
茶石力掛石焼茶お茶後座あつてお感へてそ
ろとておかけしお体息し極お水は向ふ座し亭もあ
つたおのるおとてお感へて心おあつてお茶とてお感へて
あつてお茶中入の茶とてお感へてお茶とてお感へて
件におめてお茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶
お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶

△茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶
お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶
お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶
お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶

勿倫宗匠上人より付らぬつち抱へん是業く其心と云
多はけ不記の抱へるは名抱とす此の業の湯すくへ
名抱の業と云ふてかかると事也

漢物

明星肩衝水滴弦付西施餅羅樽鶴首角末丸
大霍小霍又輪常陸帶奉座笹耳弦耳但小霍ト云
茶入ハ百年以前ヨリ時兩ト云

和物

飛鳥川根拔丸燐藤四郎脱磨大海手縮姉手黄
藥生海鼠手春慶尻脹金花山橋姫玉川玉栢
天目手伊勢手落穂小河御堂柳手野田遠山青江

但金花山の煎茶廣次松井持先茄子内海面丸朋統
綱子呂丁車井枿いさゝか最中他飯銅夏山發鍊
油燈但唐抱ゆ抱古漆々々款円座桶座けすくも抱茶多
一手中の抱めと云ふいすも武蔵院と云ふも抱和
抱と名の款品よりつて蓋をもあつて南条隆牙唐茶
入織々漆付同也

付り事

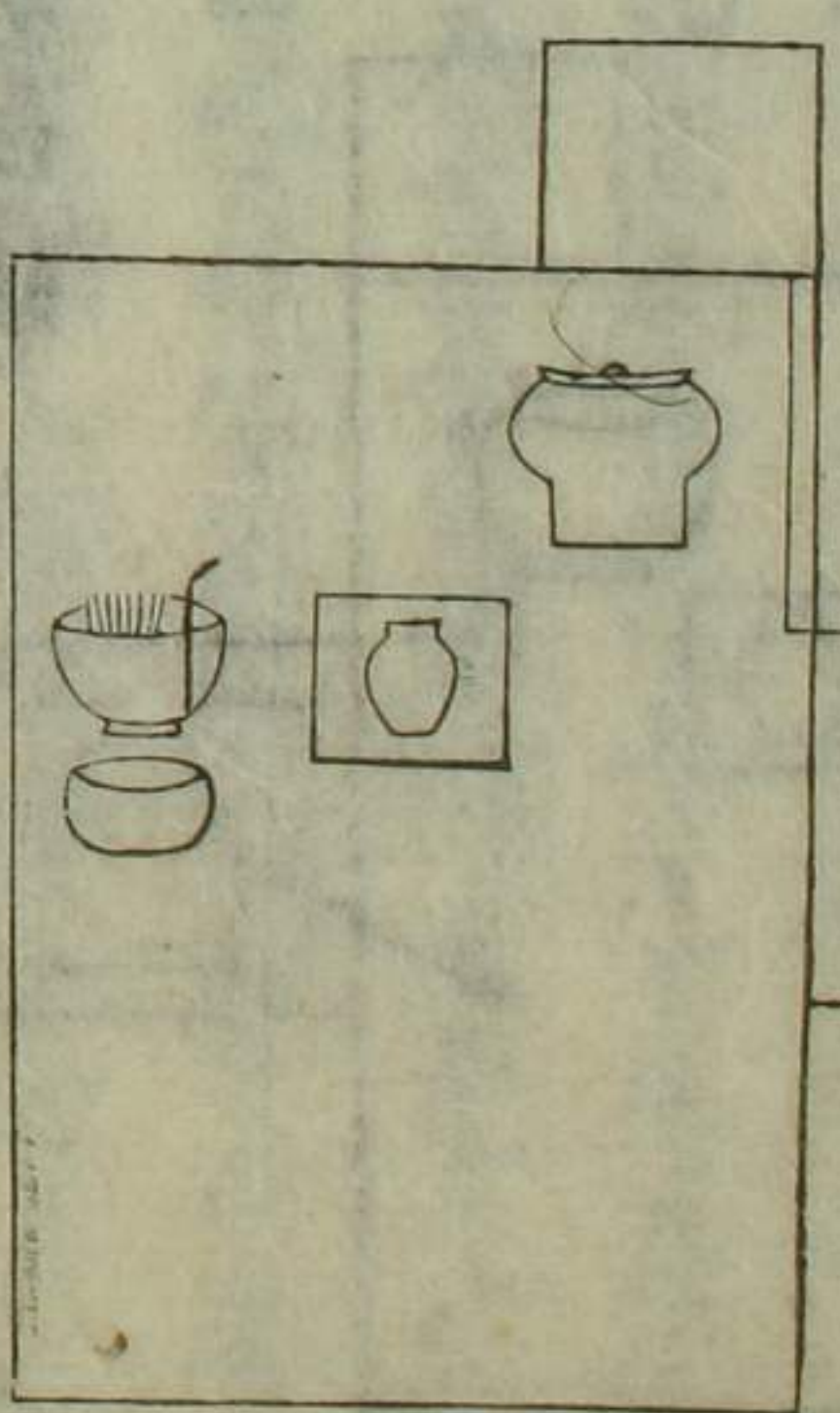
阿古時代お後銀鷗時代と前経書より利休時代より
わり又ハ唐茶あて外茶坊内黒漆の茶わりの九草と
銀鷗時代より大甲継小中継織々形利休茶多
わりの茶抄と又唐茶ハ茶抄と云

付り茶碗

漢地は空持のひこてて巻子ありやうううと云ふ茶
 器とて大徳寺又巖子紅糸の焼流つて又巖子と云
 け取くち付小井戸子摩圓とてうすうすの器あり
 わけとてはもあつたり半洲法本焼常と云ふ
 船雲鶴安南茂三焼筒茶碗錦子と云ふ器と云ふ
 赤茶碗織の焼建と云ふ月本天目と云ふ器と云ふ
 大徳寺と云ふ器と云ふ器と云ふ器と云ふ器と云ふ
 一凡と云ふ器と云ふ器と云ふ器と云ふ器と云ふ
 垂入持出常のてくお居住持て時と云ふ茶碗の器と
 器のと云ふ器と云ふ器と云ふ器と云ふ器と云ふ

茶碗の目とて人垂板又悦巾取出たてと云ふと云ふ
 引出勝をれ方へ少と向ふと云ふと云ふと云ふ
 ますとての方と縦ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 めたうとて茶入丸わけと悦巾ハ懐中してたふく
 茶入丸の目とてと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 茶と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 蓋とて茶巾と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 めと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 湯以上と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 して茶碗と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

受より紹興受續たる中
 式 其店数寄金位右が
 多系風がれを有利保
 織々を列をみそと宗
 通連之必味物数寄玉
 括の宜不一返月目と括



る茶はあつたに才或湯太人付の家通にても可羅仁執
 心より連を一返へはと情を物知るへ

一三廻る大面懸ふ移るのには茶客の趣而肉を意と

あはるのかりありは意をすは若下大さるるが肉よ

茶也

一けりあよまの茶懸

とていふは茶を括りあへ
 出ていふは茶を括りあへ
 水茶を括りあへいふと
 水茶を括りあへいふと

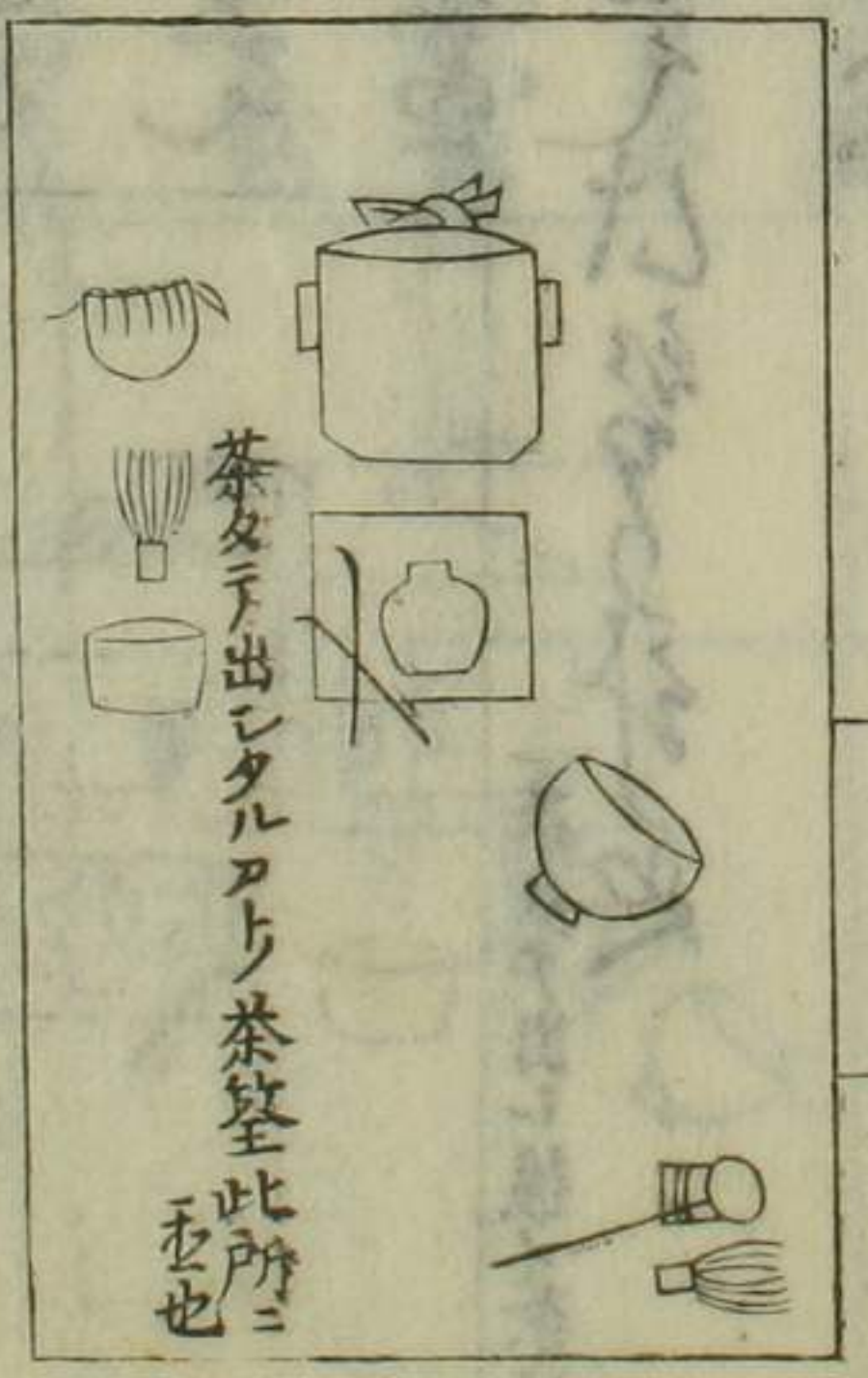
一た茶を括りあへいふと茶を括りあへいふと茶を括りあへいふと

と茶の力も茶也

茶を括りあへいふと茶を括りあへいふと

茶懸出那

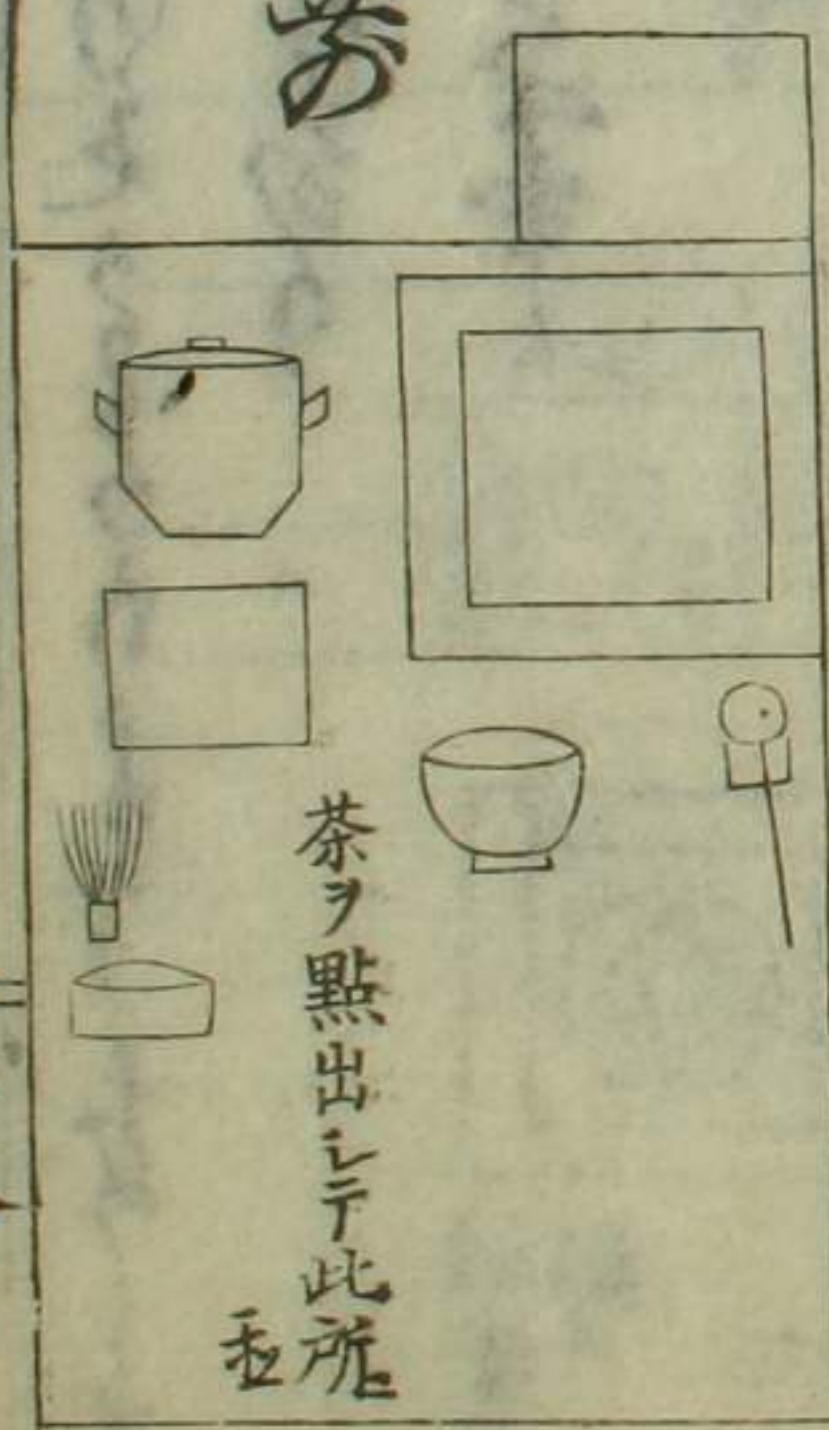
紹興ハ九座ニ用



後一茶ニ
 前二茶ニ

茶々下出シタルカトリ茶壁此所ニ
 茶也

前二度湯一度受茶



茶ヲ點出シテ此所
 茶也

一魚點から手すり一荘りえううのようになう一茶
登の茶所わけはせりる計あり

一魚とす小及魚魚點之茶

一けり茶茶様から手す

一けり茶茶様から他配を茶

一けり茶茶様の茶不茶様

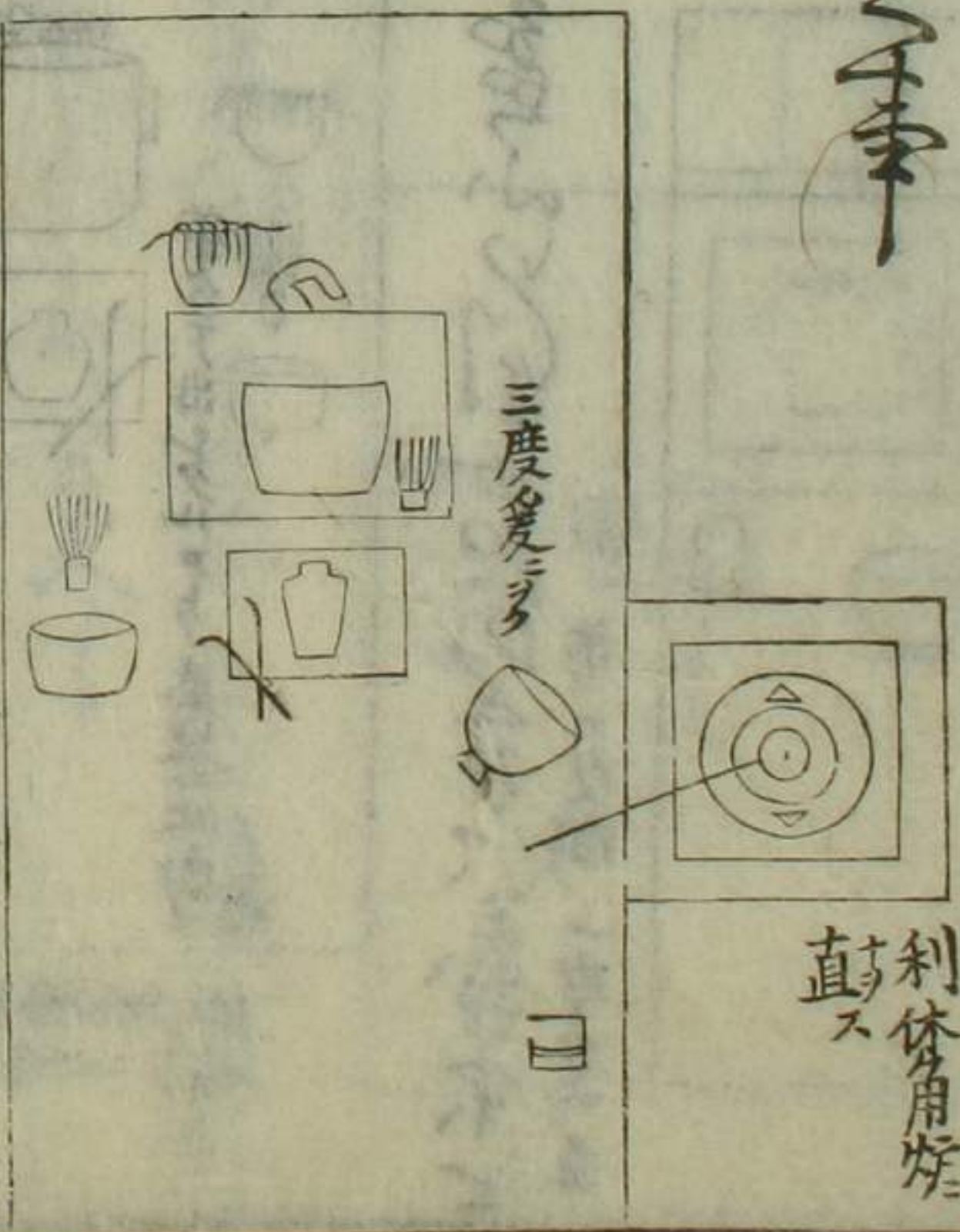
一けり茶茶様と茶のり茶

一けり茶茶様の茶のり茶

のり茶とけり茶とて茶けり茶

柄櫛棚盆點之茶

一けり茶柄櫛棚たから茶のり茶のり茶のり茶のり茶



利休用茶
直ス

三度爰

茶々茶出後茶茶茶コニ茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

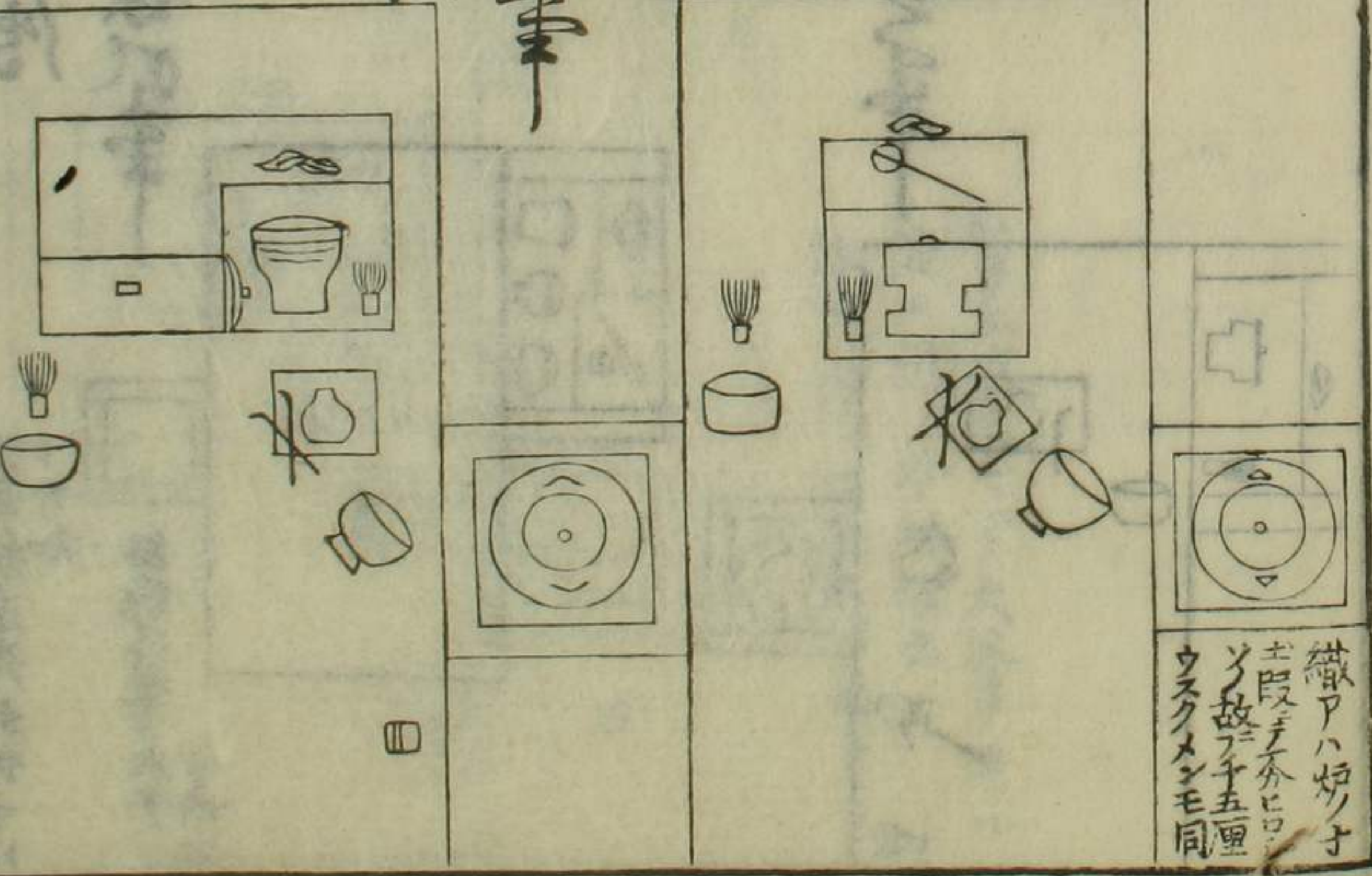
一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶



織アハ焼ナ
土段チ茶茶
ソ故チ茶茶
ウスクメンモ同

世内事全に人を知るに付

に事す職の事を知る事

一帯の事を知る事

皆く知る事

各事を知る事

依て不及事を知る事

合の事を知る事

一帯の事を知る事

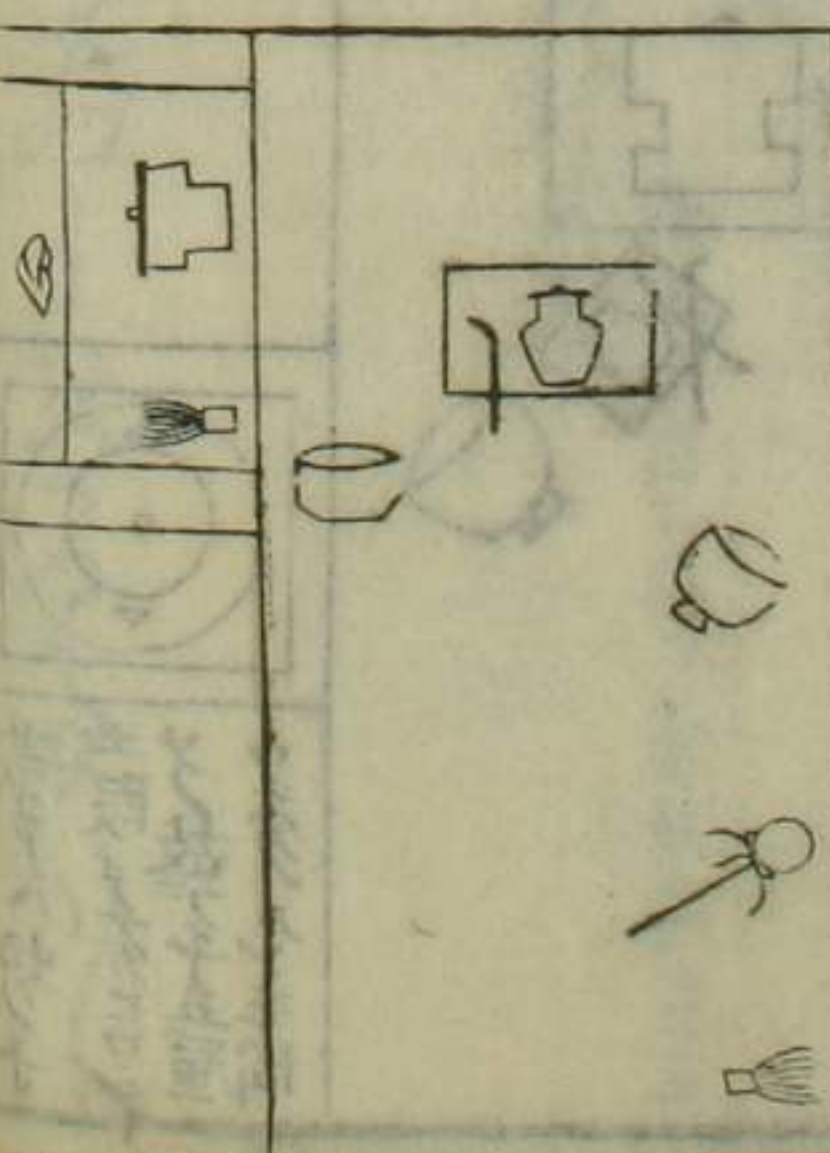
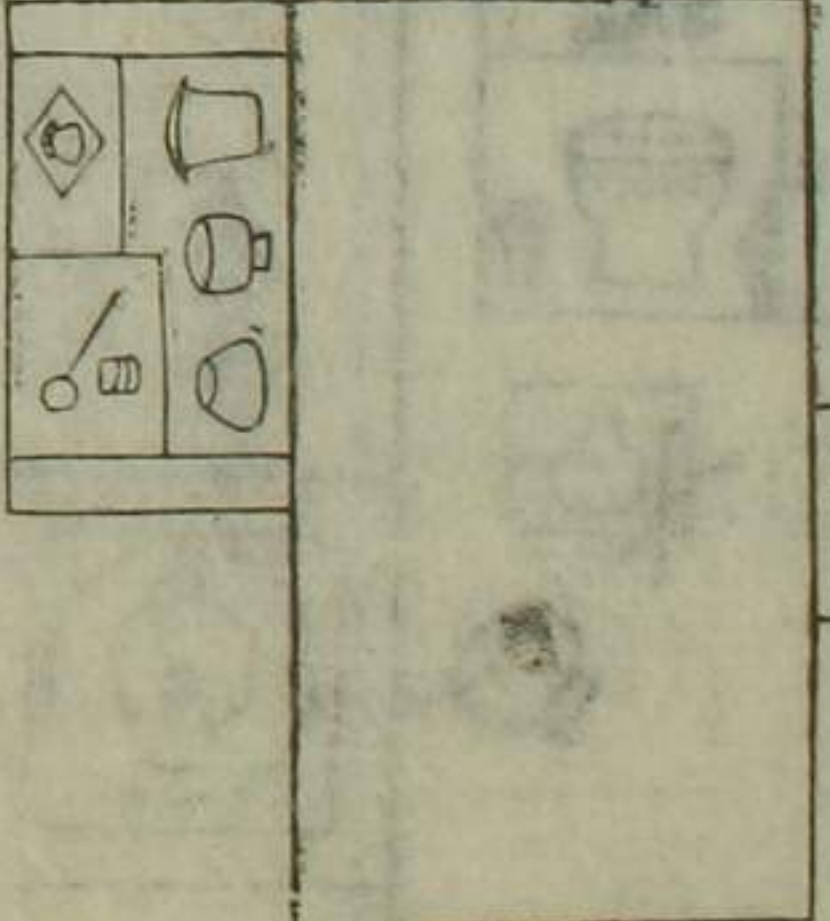
一帯の事を知る事

一帯の事を知る事

一帯の事を知る事

當世知遠列利休寸法
上可知

紹興已來ノ大匠
寸法也

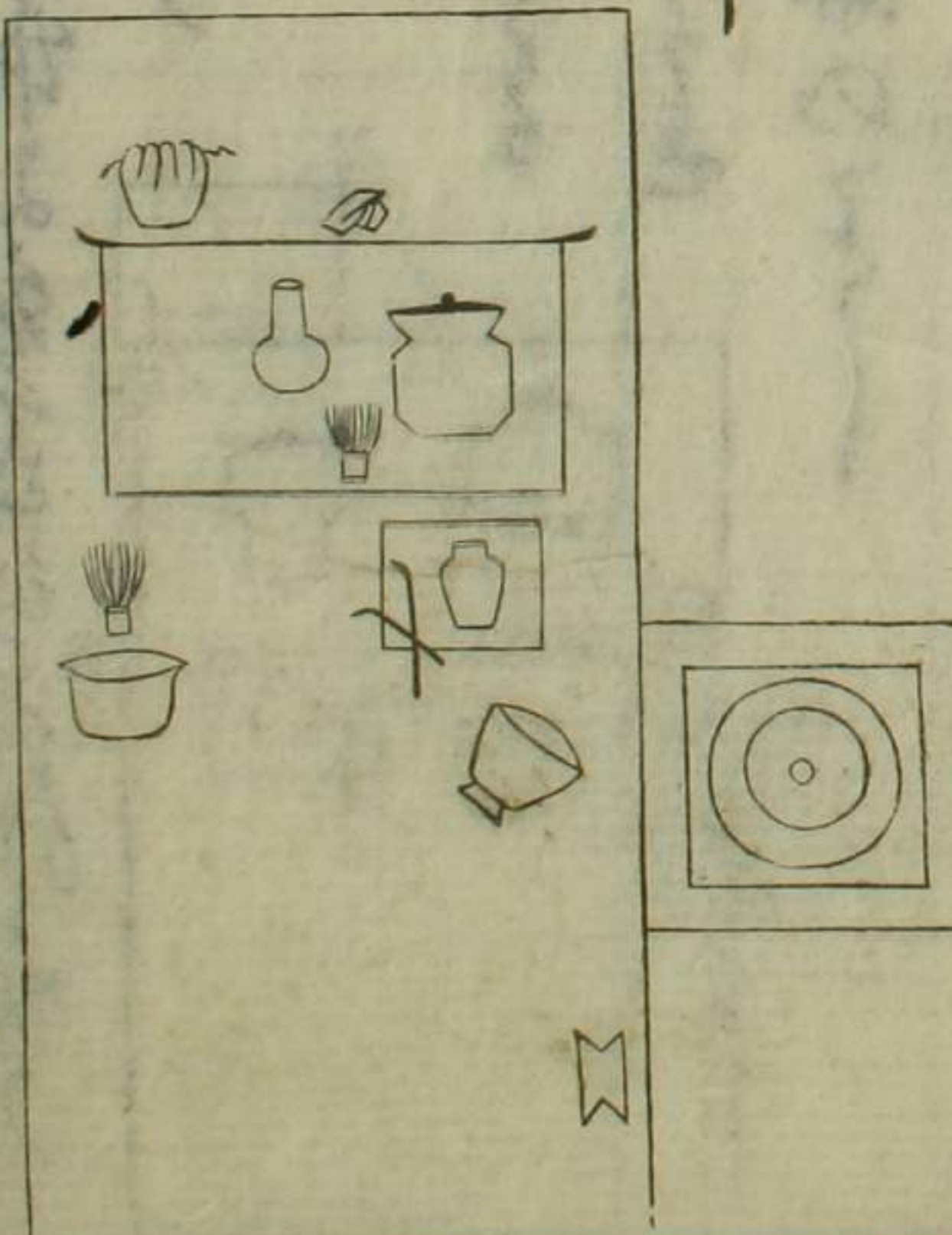


一帯の事を知る事
一帯の事を知る事
一帯の事を知る事
一帯の事を知る事

一帯の事を知る事

一帯の事を知る事
一帯の事を知る事
一帯の事を知る事
一帯の事を知る事

聚楽法京マテ大金ヲ用ル
是モ湯ノ吟味故也
依夫ノ二命大ニ用ヒタリ



ありあけの茶^{ハムラ}と茶^{ハムラ}入る中よあてふちうとあてふちう

風炉の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

一けの茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

本勝の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

一けの茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}



其臺子六聚茶法印或法
以來當世ニテ不敗

本板同茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

一けの茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

は茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

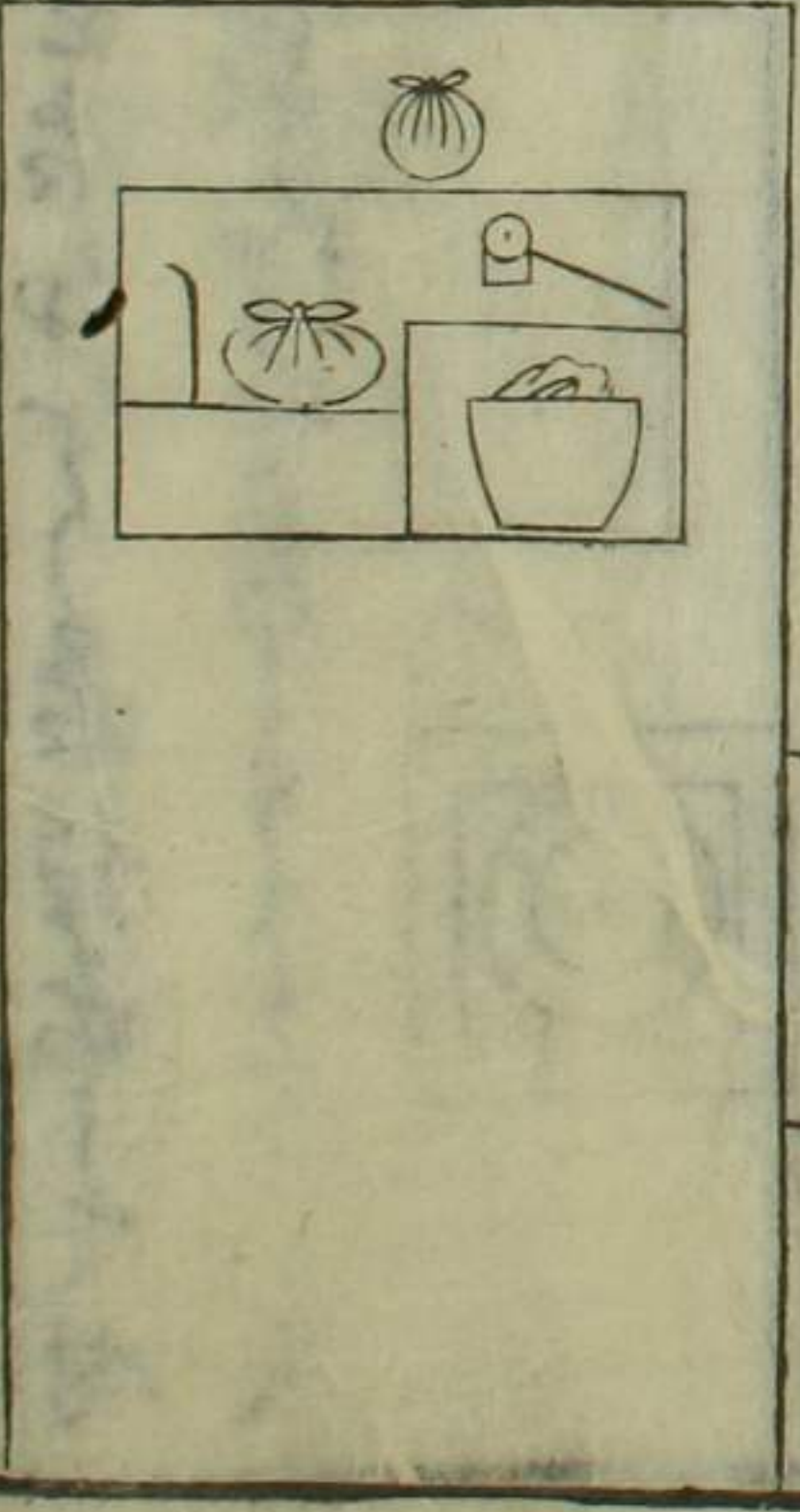
一けの茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}

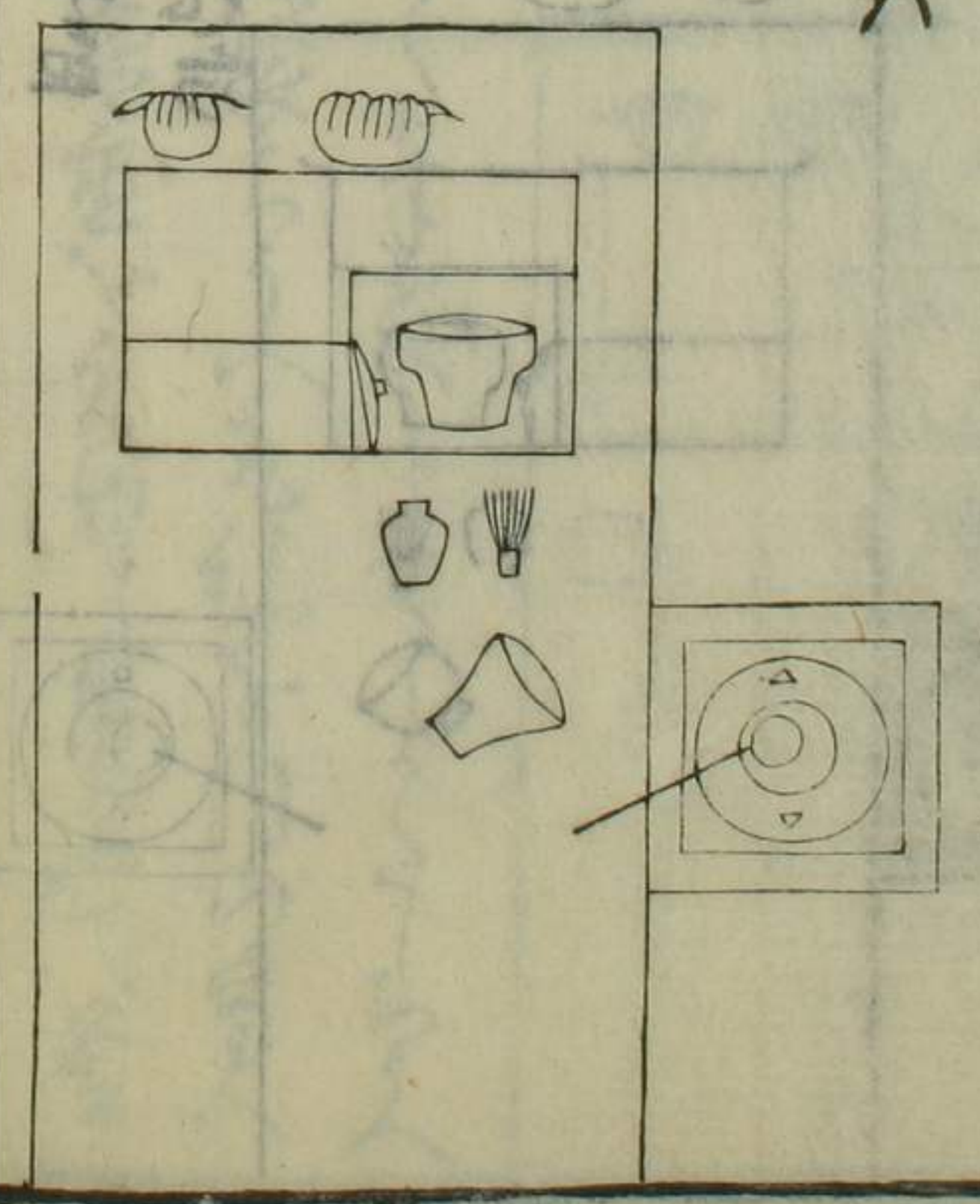
茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}の茶^{ハムラ}



其臺子八六昔ヨリ茶會ニ用旧式也
大人之茶具是根本也

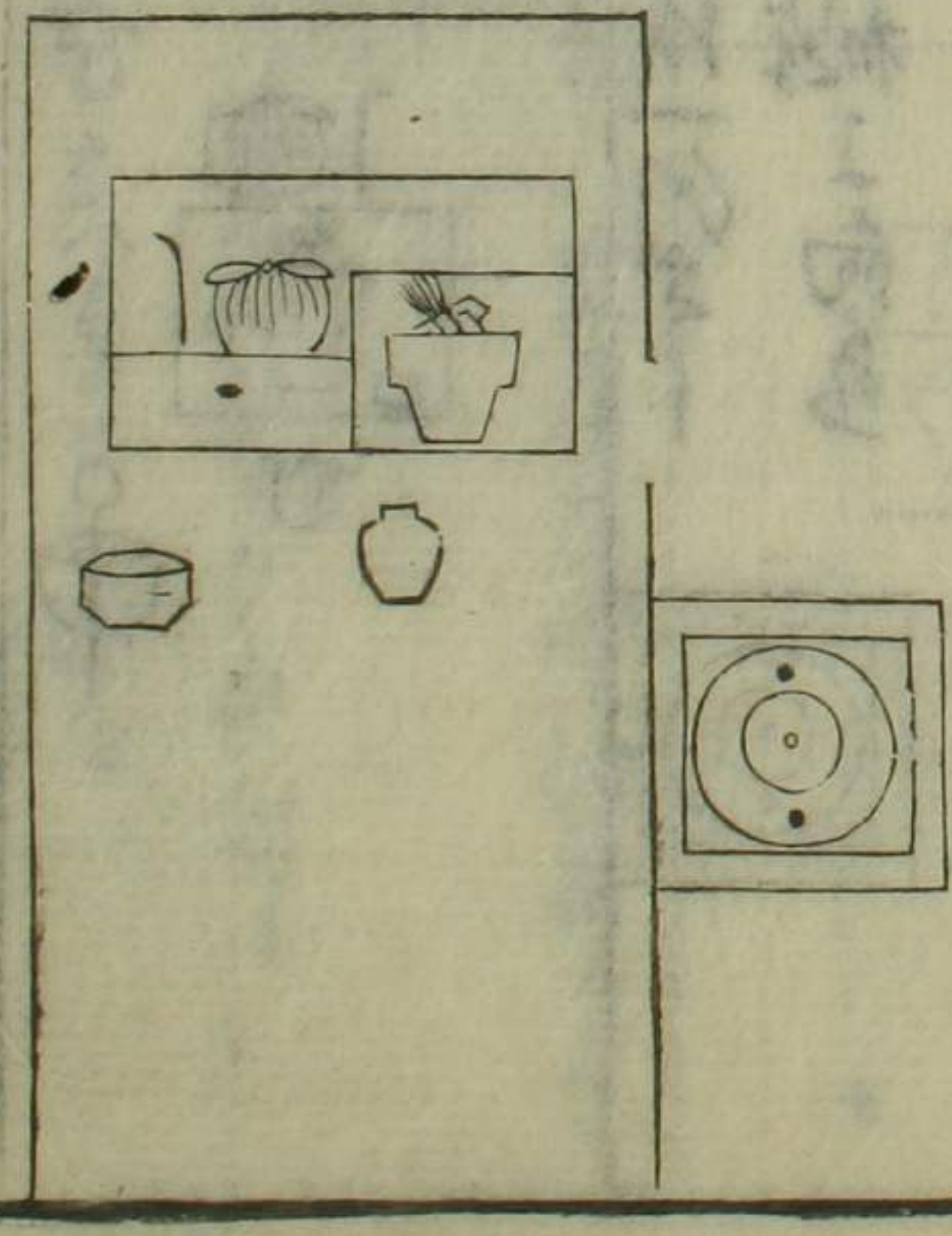
上湯と拭拭下ふ茶茶巾をうへにたりのてくはる
 お茶茶碗に茶を入茶碗に茶を入り茶碗に茶を入り茶碗に茶を入り
 碗より茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入
 け拭拭茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入
 ぬりぬりのてくはる一帛をうへにたりのてくはる茶碗に茶を入
 やいと茶碗の茶をうへに拭拭ハ

棚上茶碗をうへに
 茶碗より茶を入り
 茶碗より茶を入り
 茶碗より茶を入り



蓋のてくはる茶碗の茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入
 一柄拭下ふ茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入
 茶碗より茶を入り茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入
 一柄拭入茶碗より茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入
 一柄拭入茶碗より茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入茶碗に茶を入

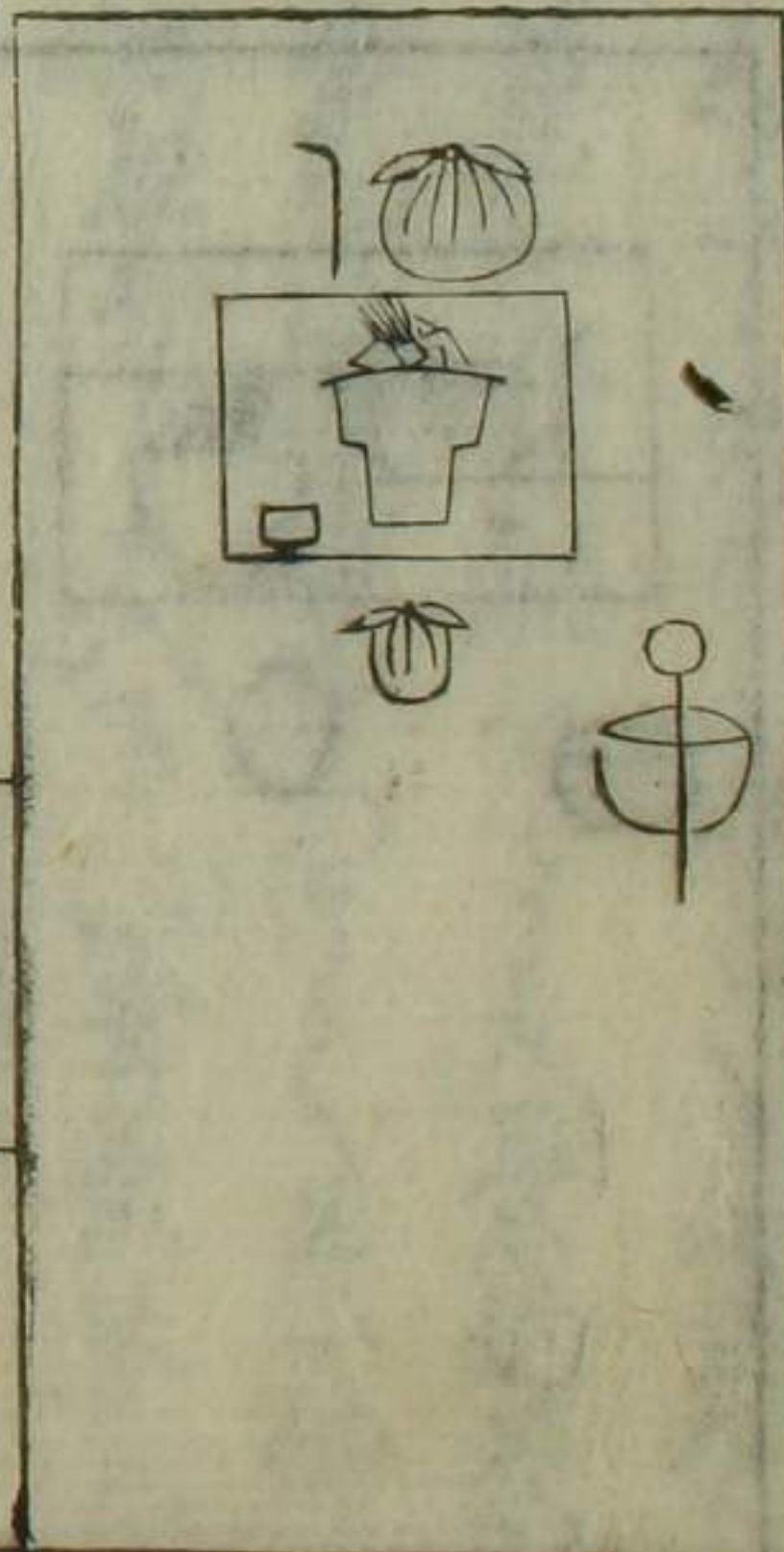
入茶茶碗に茶を入
 一柄拭下ふ茶碗に茶を入
 茶碗より茶を入り茶碗に茶を入
 一柄拭入茶碗より茶を入



茶碗と入紙とす
けりおねたき簾
よすへー扱茶ん
扱へ上々茶碗の巾

ひよりそれら扱とえち成二のさ
分れ書とほり扱とりふ茶碗は向ふ

扱の書すつ茶巾と茶碗とて附あつて茶碗入を附
りて茶碗とてふ茶碗とて扱とて茶碗とて扱と
へ入て茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と
一茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と
簾とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と



扱つらうー茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と
とて茶碗と

いふ茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

一茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

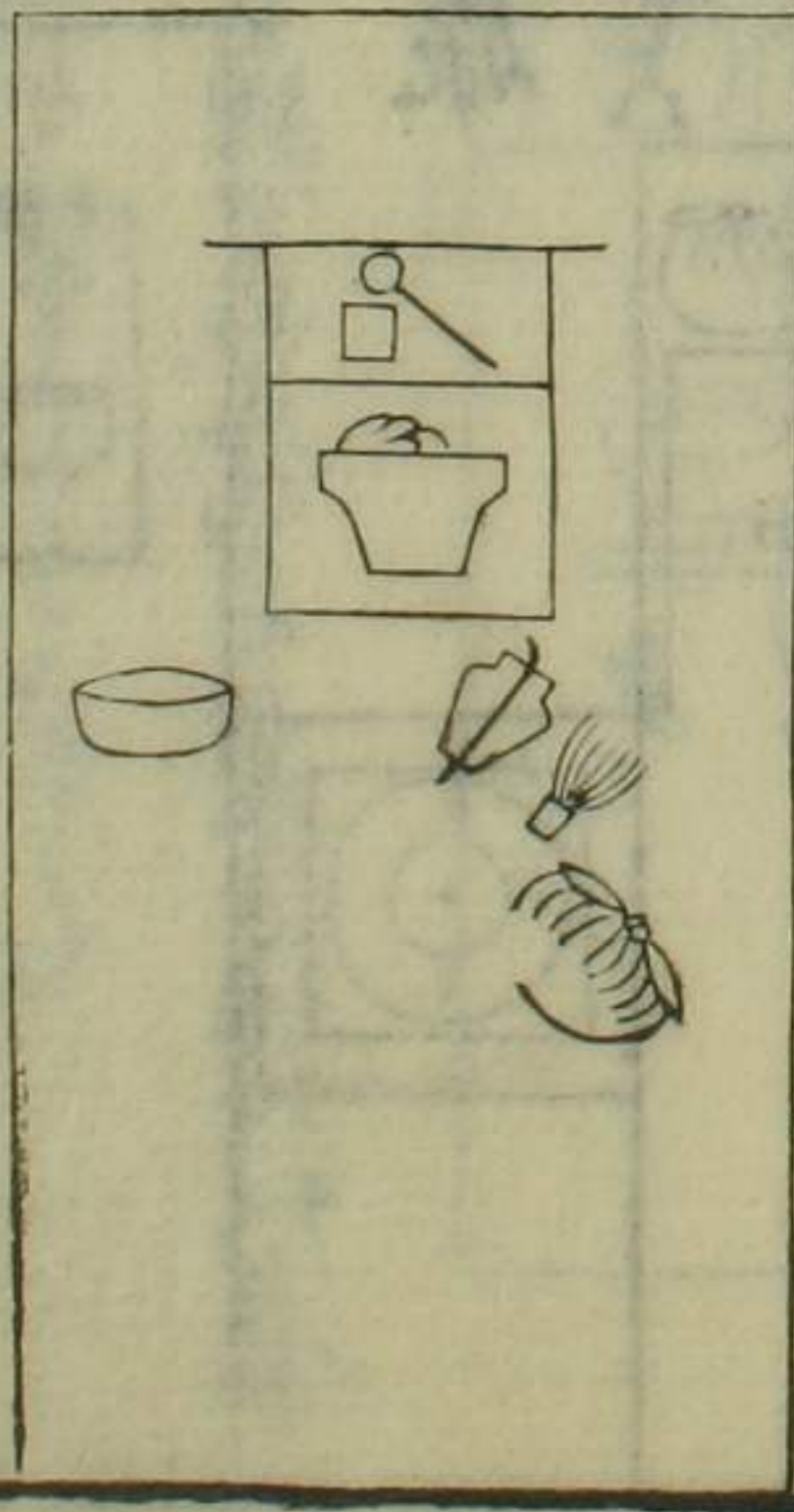
茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

一茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と

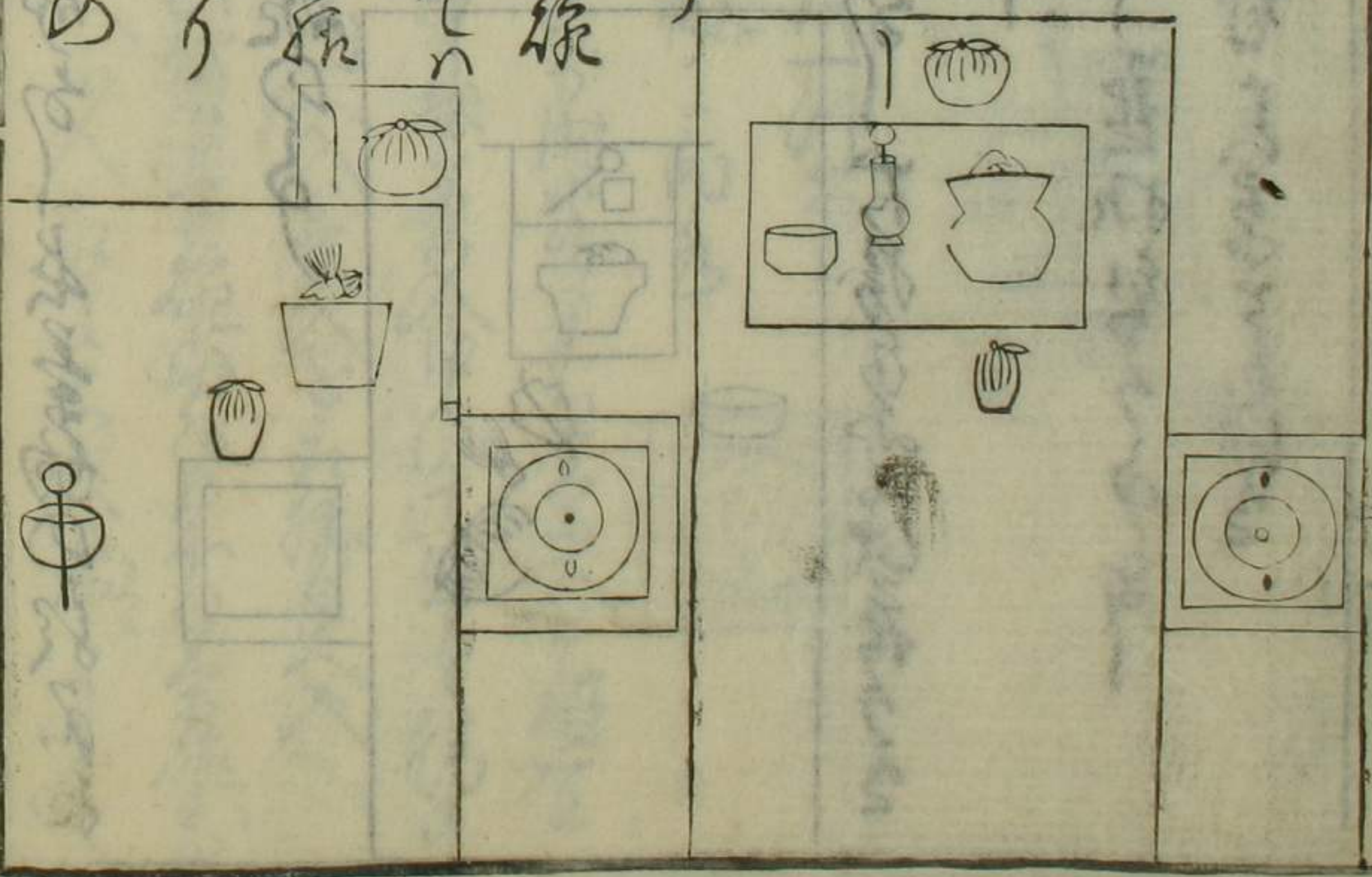
一茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗とて茶碗と



おつて茶室のあつた
 うつあゝゝゝのち
 うゝゝゝゝゝゝ
 うゝゝゝゝゝゝ
 うゝゝゝゝゝゝ

こゝろ大茶室碗のす

一はちあゝゝゝゝゝゝ
 のちゝゝゝゝゝゝゝゝ
 侍ゝゝゝゝゝゝゝゝ
 侍ゝゝゝゝゝゝゝゝ
 侍ゝゝゝゝゝゝゝゝ



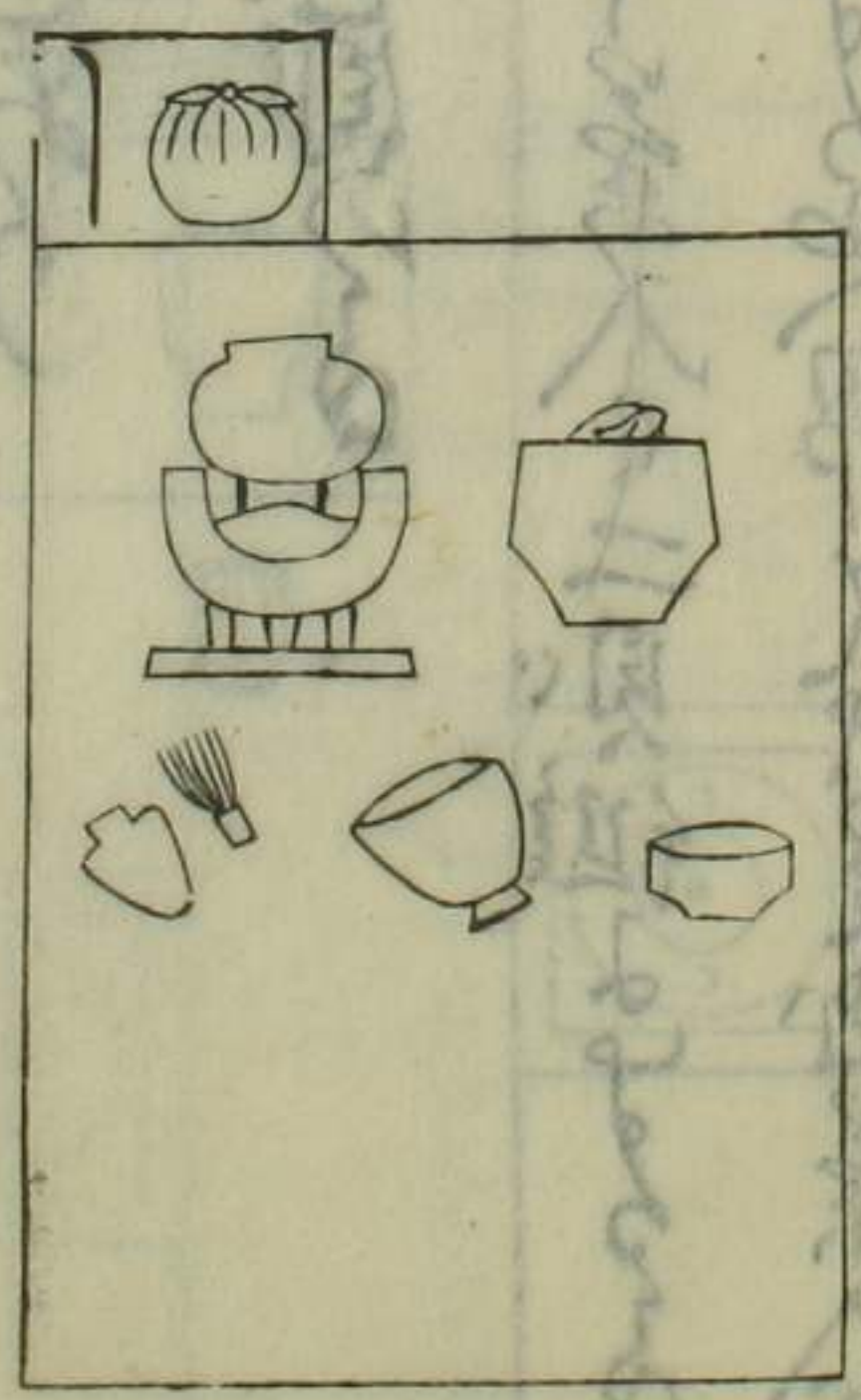
ちゝゝゝゝゝゝゝゝ

風炉茶室碗のす

一はち茶のちゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝ
 一本勝ゝゝゝゝゝゝゝゝ

茶室侍茶碗のす

一茶室茶巾水持の書のとゝゝゝゝゝゝ



あつねは茶碗の付はけ

一は茶碗の付

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

一は茶碗の付はけ

茶碗の付はけ



茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

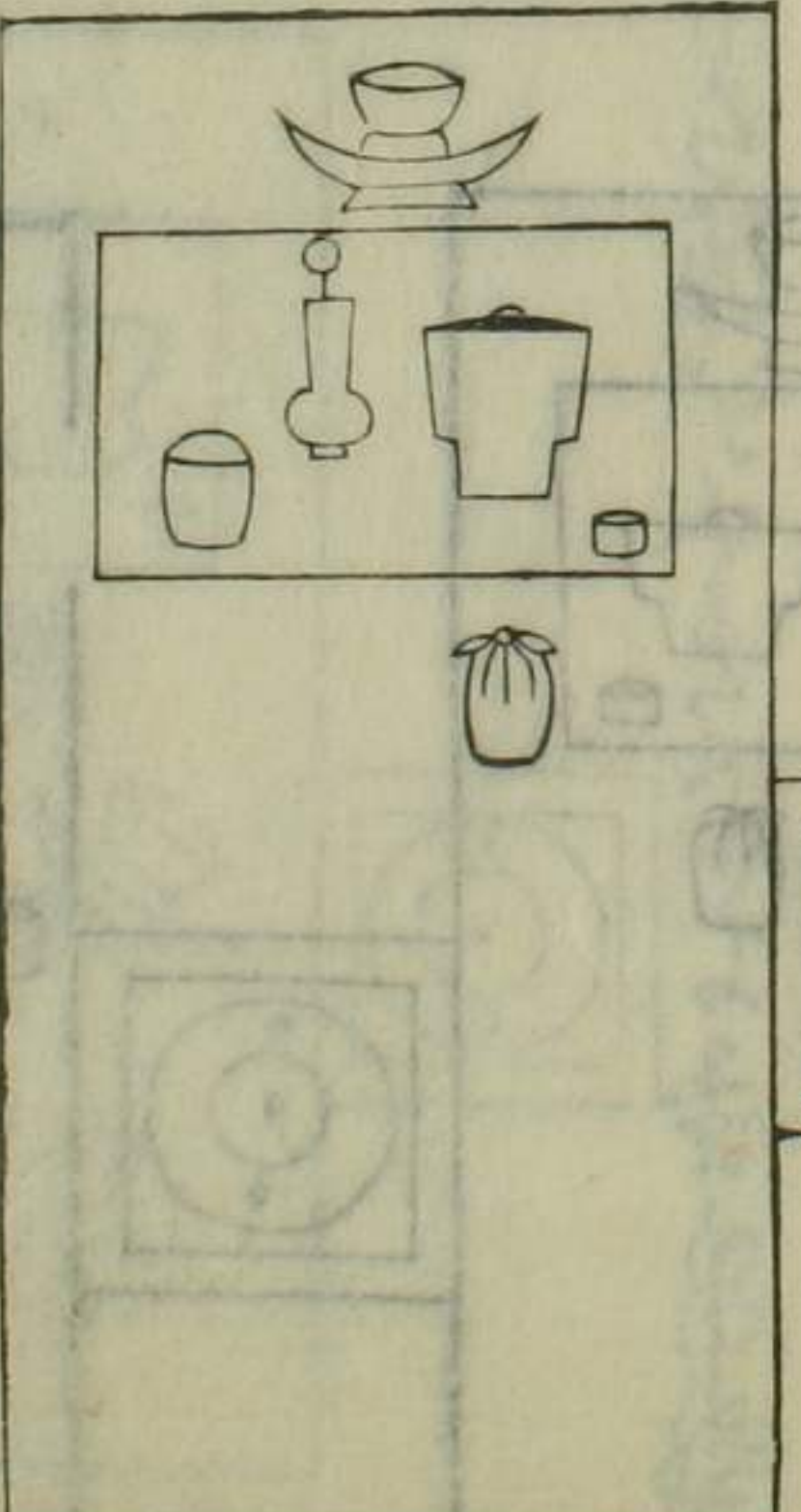
茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

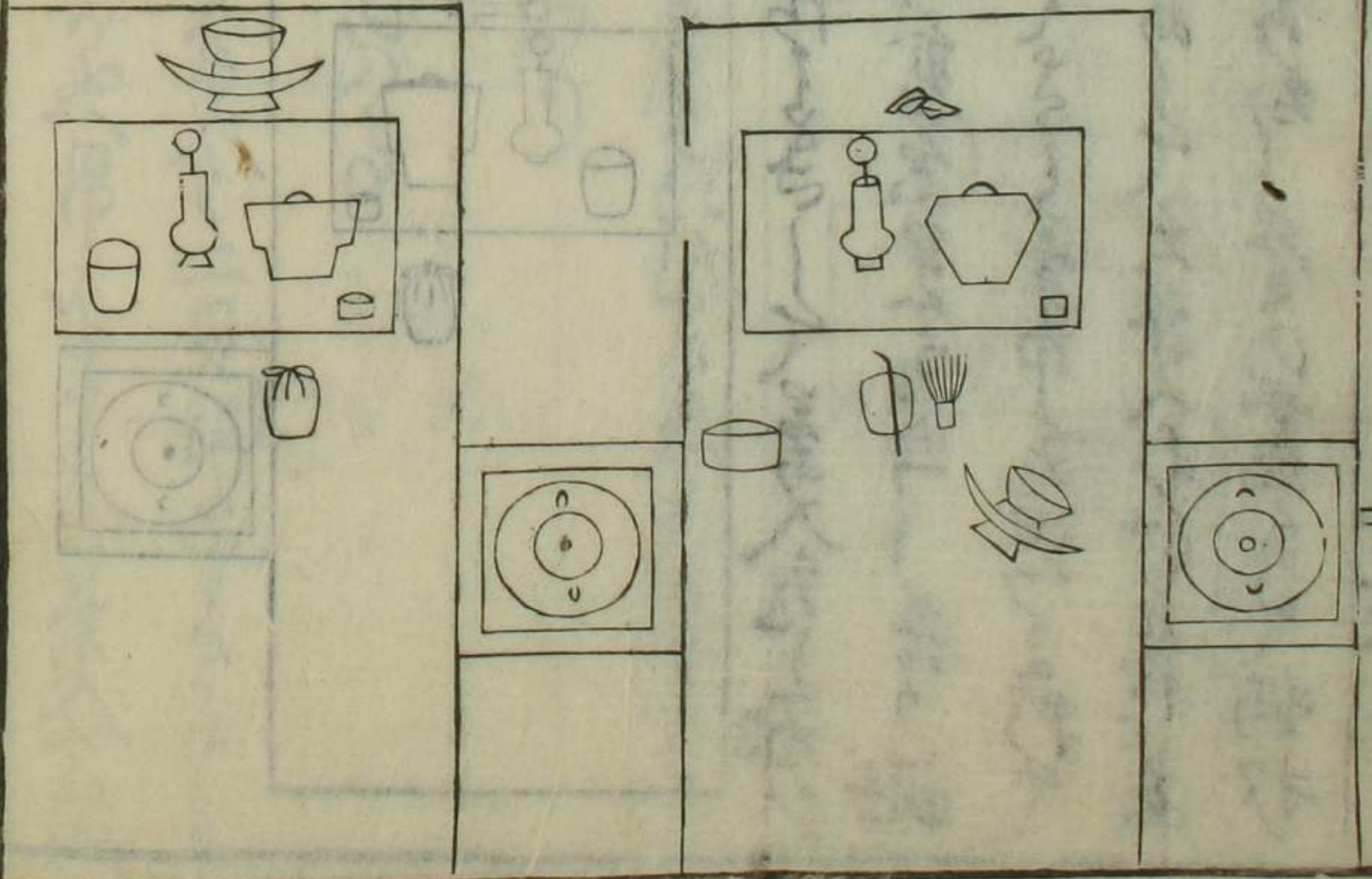
茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

茶碗の付はけ

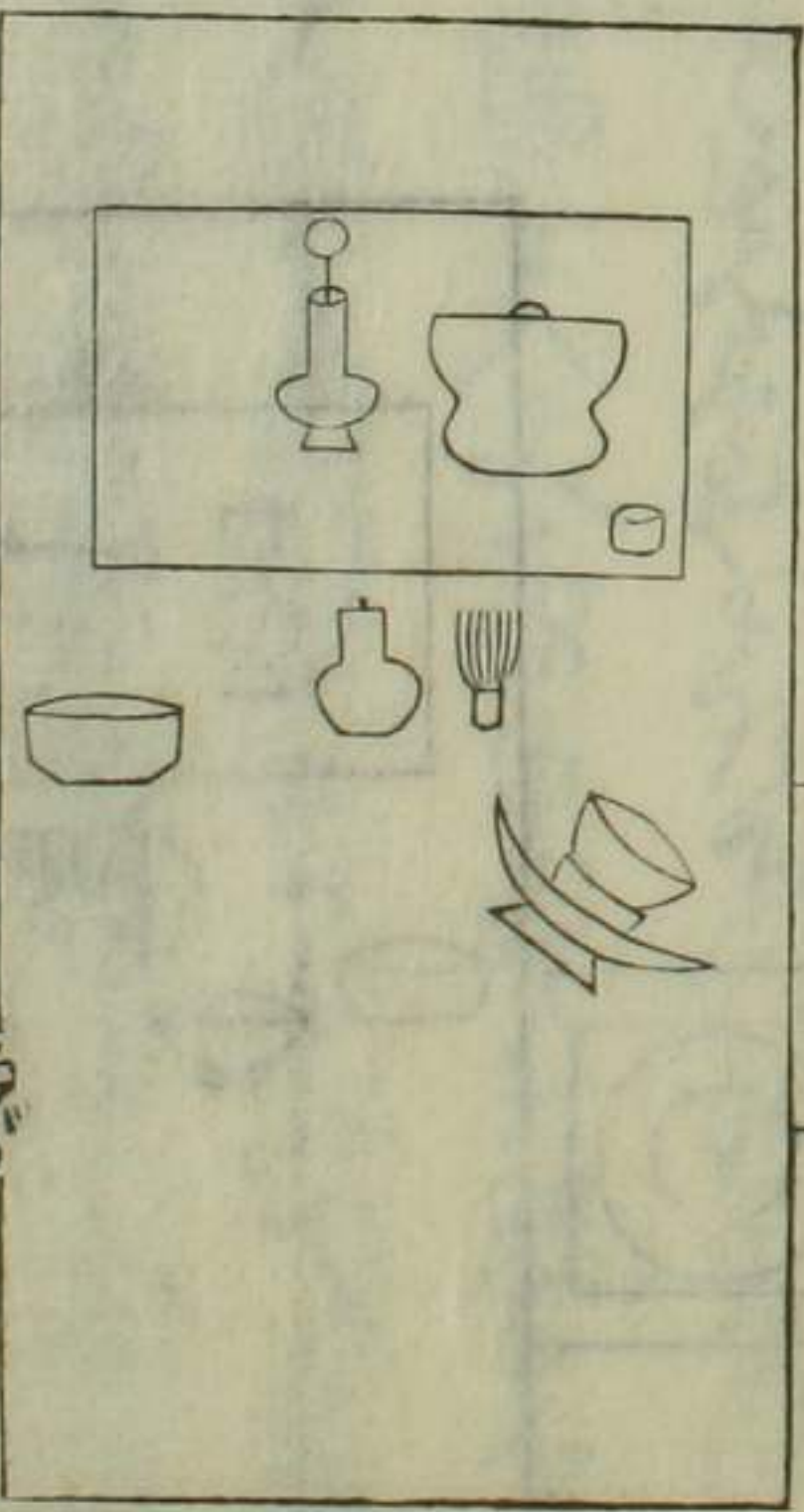


ぬれぬ湯二つあり入
 ひやくの釜よりけしき
 めくともと
 ちちく湯と
 湯二つすく
 又湯二つ湯
 一つ入煎物釜
 かせたへ湯
 けしきすく
 やく湯
 湯二つ湯



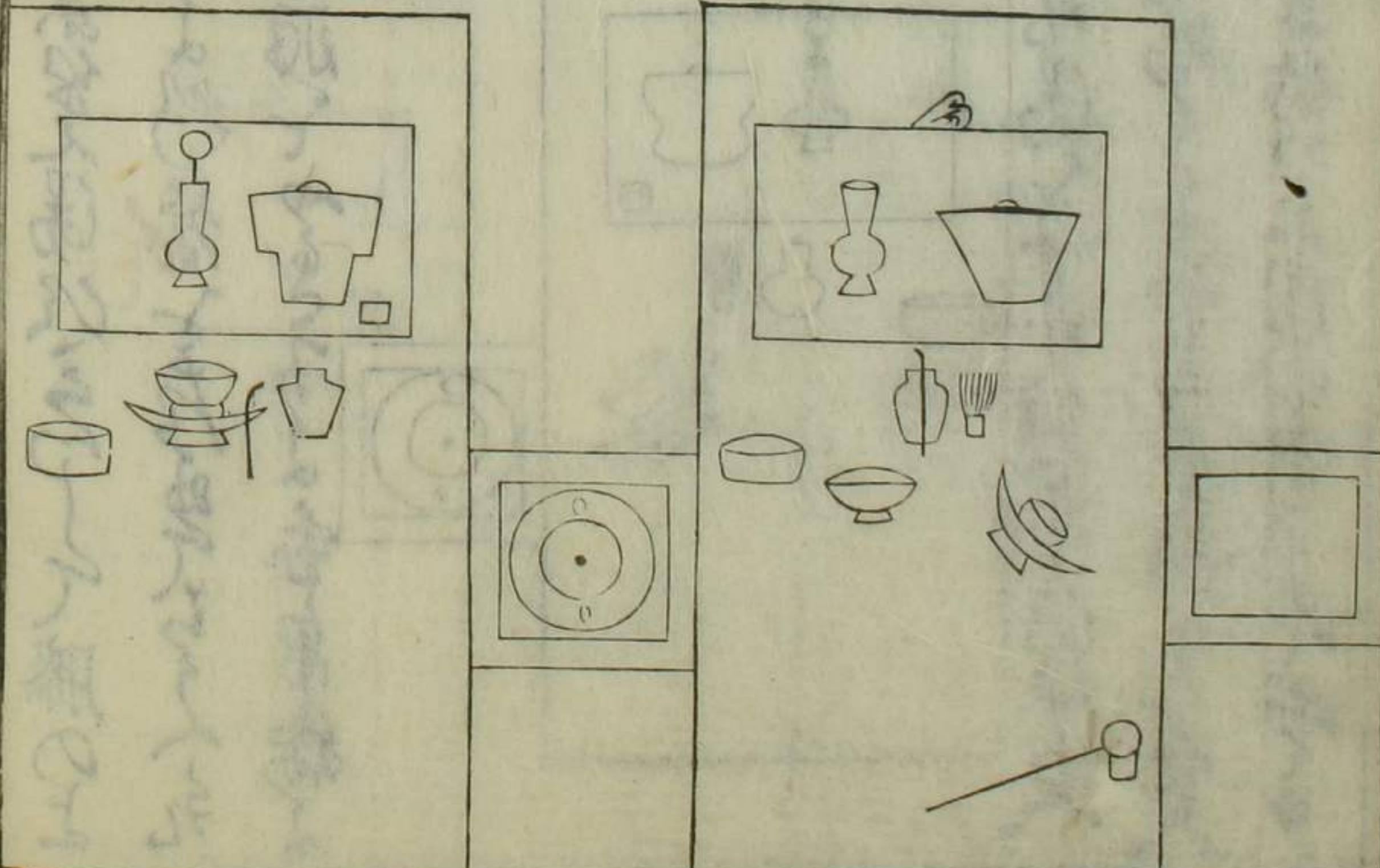
月へあひみて茶中へ茶葉は湯ひらいて膝の上
 へ茶葉あり茶中へ二つは茶葉を茶中へ入
 めげえちうづき茶中へ湯ひらいて茶中へ茶葉は

つまみ
 湯二つ湯
 二つて湯



上りより茶中へ茶葉は湯ひらいて茶中へ入
 めげえちうづき茶中へ湯ひらいて茶中へ茶葉は

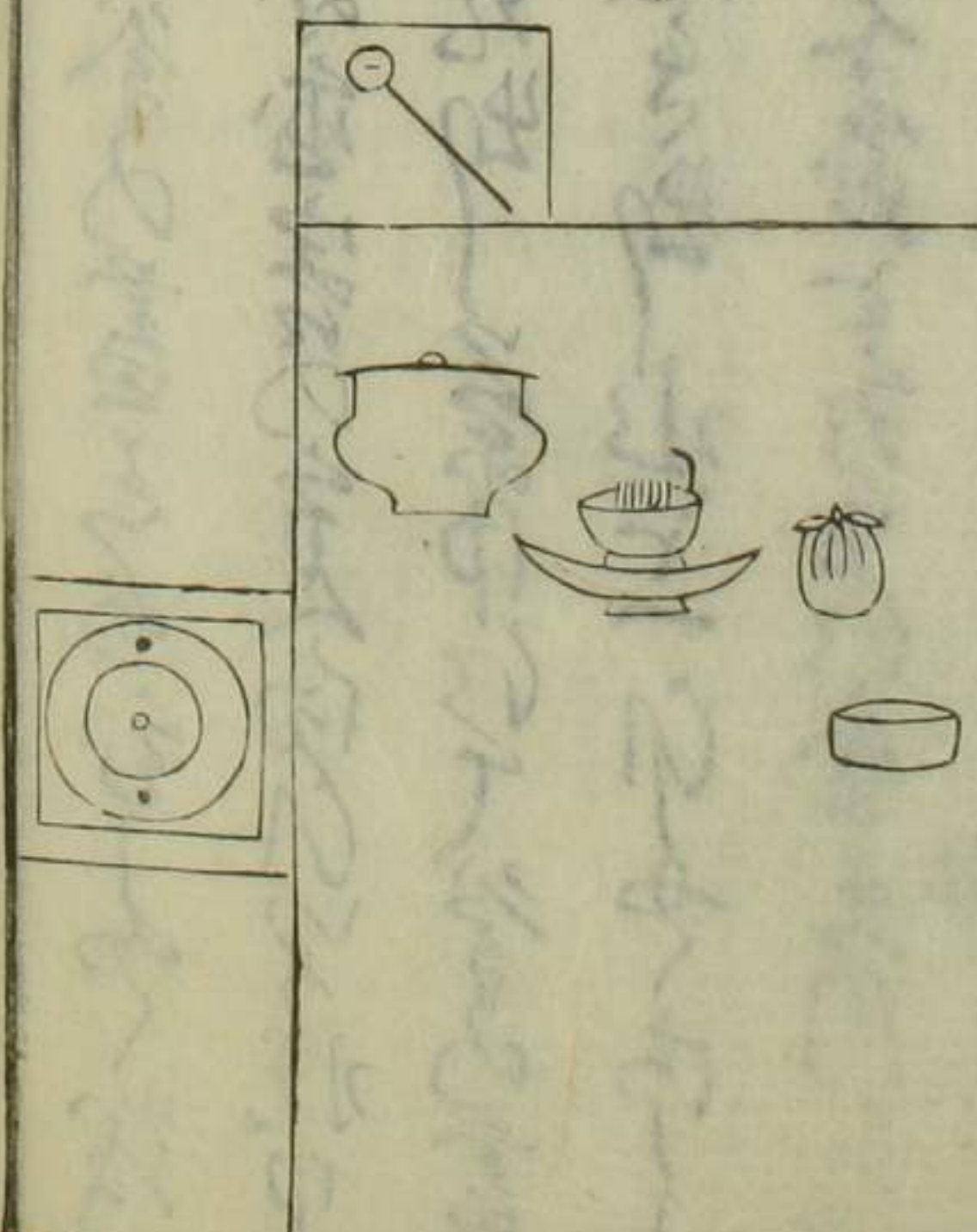
ちしちあておをすし
 目の中へ入るはな
 と磨きお茶
 入はかけひ
 ちしち吊ひて
 蓋を湯と茶
 茶をわくは茶を本茶
 茶をわくは茶
 茶をわくは茶
 茶をわくは茶
 茶をわくは茶



ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな
 ちしちの中へ入るはな

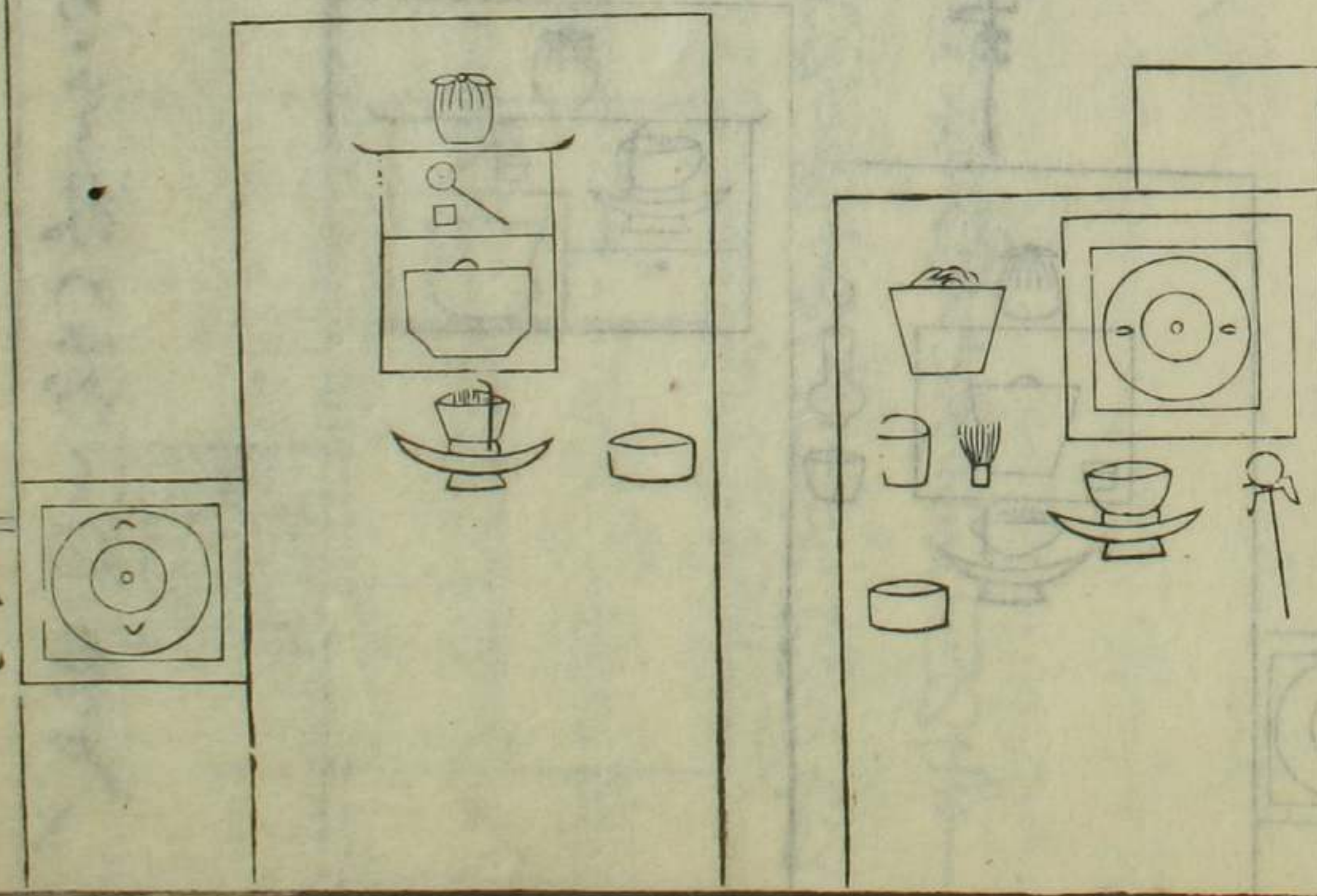
蓋をへちりよりその蓋の蓋とて柄杓を柄杓より
 一蓋を柄杓より時々の蓋入らるゝの蓋のてくめひ
 出るとおきよかゝる事おけけおめはくゝめひと
 もいふれくゝめひなりくゝめひなり式方へいす也
 めくゝめひくゝめひなりくゝめひなり式方へいす也
 本也 二蓋を大蓋を同大勝の事

一此の蓋の柄杓かくれに
 二柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 三柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 四柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 五柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 六柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 七柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 八柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 九柄杓の柄杓より柄杓の柄杓
 十柄杓の柄杓より柄杓の柄杓



一蓋を大蓋を同大勝の事

一けいふ茶を同大勝の事
 二けいふ茶のてくめひ
 三けいふ茶のてくめひ
 四けいふ茶のてくめひ
 五けいふ茶のてくめひ
 六けいふ茶のてくめひ
 七けいふ茶のてくめひ
 八けいふ茶のてくめひ
 九けいふ茶のてくめひ
 十けいふ茶のてくめひ



上あつ茶入と丸ありの茶入とあつ茶入の三種也

備極本膳の巻を同す

一た膳の巻もいふあり

一けの巻からいふあり

概めを番極の巻とあり

よきあつ茶入とあつ茶入

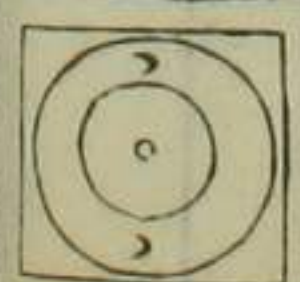
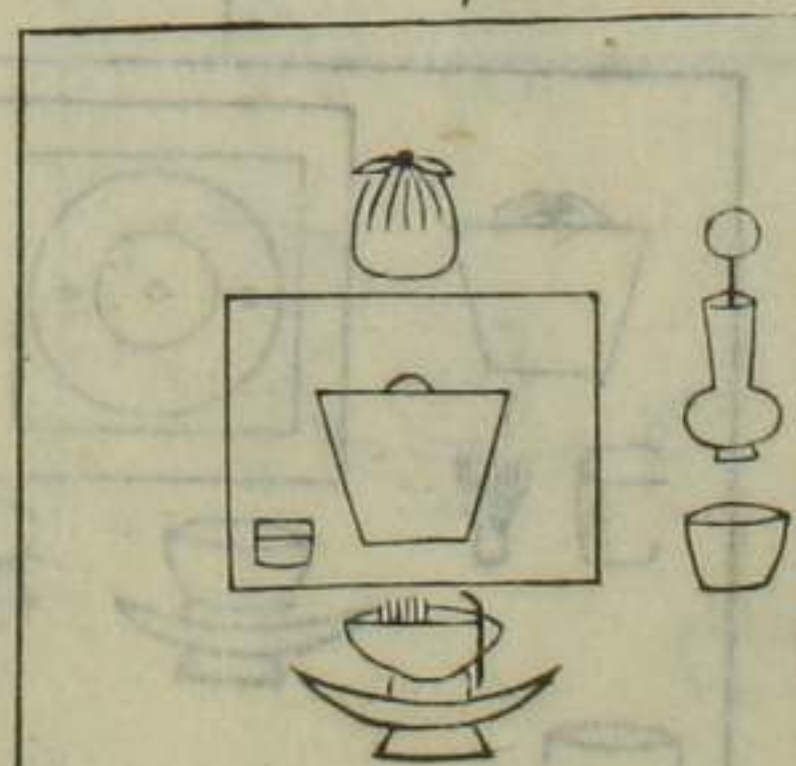
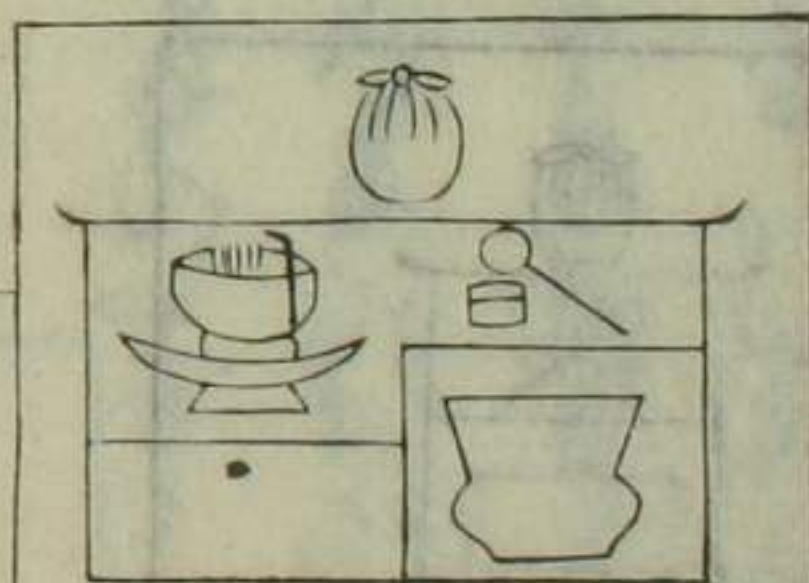
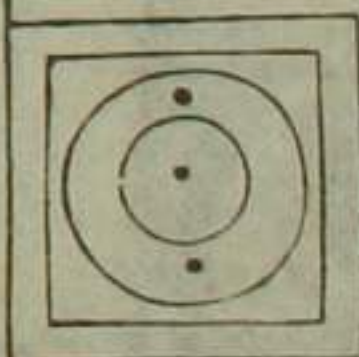
あつ茶入

小体甚本膳の巻を同す

一此の巻はつあつの巻

巻と月極は一具を茶入

りよき茶入とあつ茶入



よきあつ茶入とあつ茶入

巻と月極は一具を茶入

りよき茶入とあつ茶入

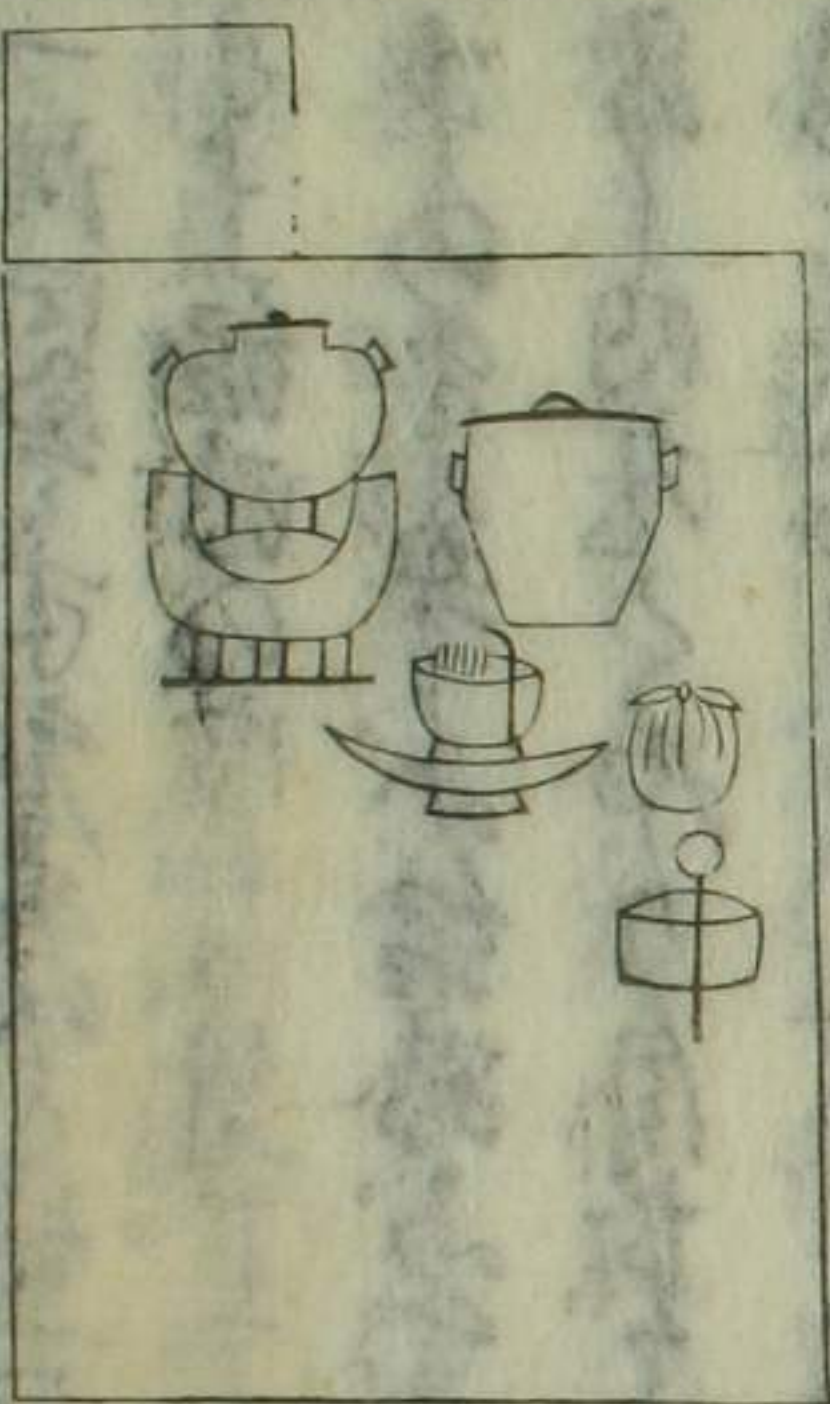
あつ茶入

月極本膳の巻を同す

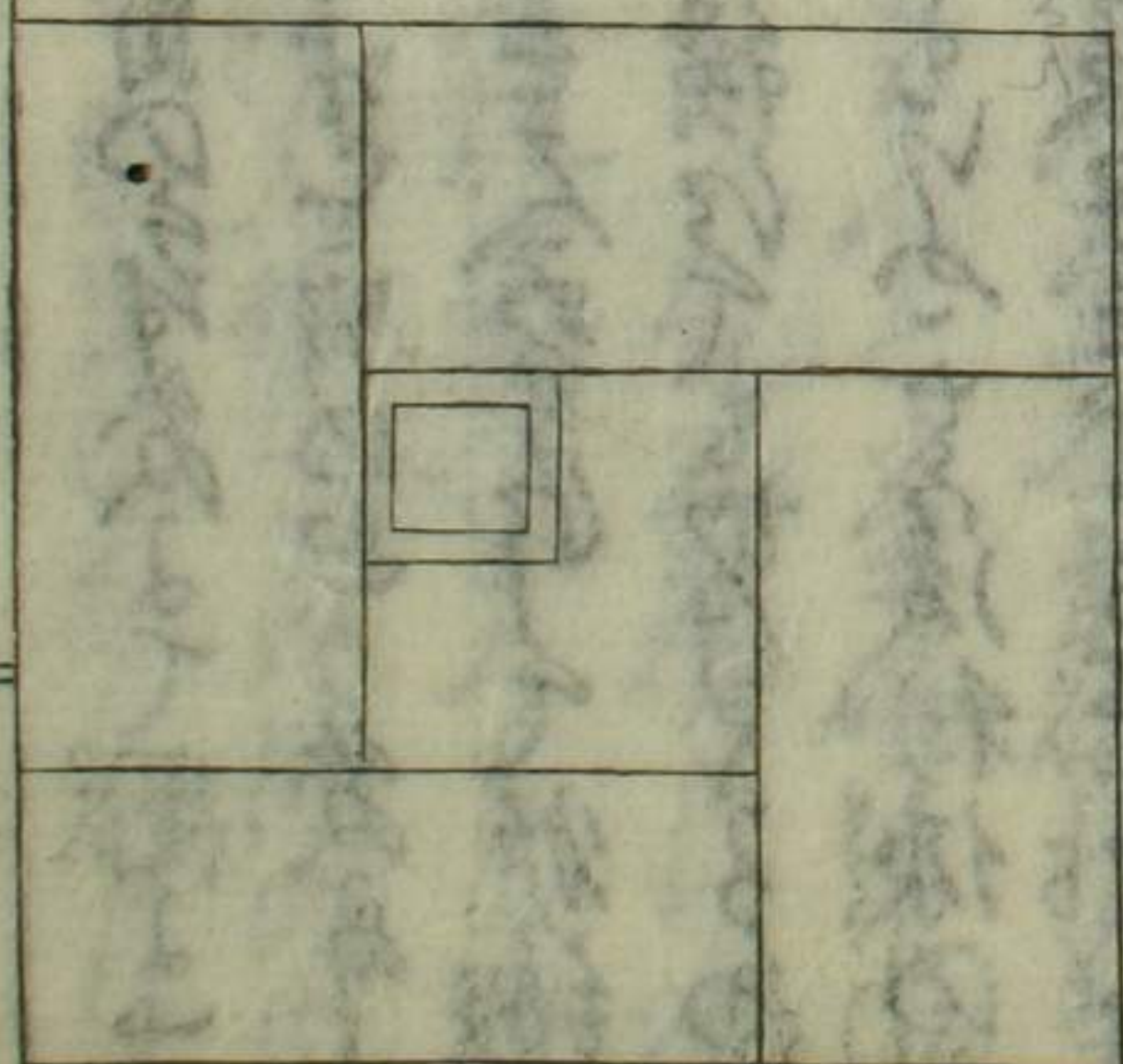
一此の巻はつあつの巻

りよき茶入とあつ茶入

あつ茶入



あつ茶入



一此田をす度安とらまふ古昔の事安よて園くらより
 一す紹臨せうりんの時ち用事ある事と成の事安あて
 中の事安ふ紹臨あて成とまふ事けりて紹臨せうりん角
 あり内九くわり自みづかちとを續つづけてもあけらる也
 故に續つづの事とを自みづかちるもいふ事後利り休やすの時
 至いたて紹臨せうりんまふ人けすもいふ事後利り休やすの時
 肉にくの寸分は方よめらり紹臨せうりん乃畏おそよて成中の
 成せいとを心めて角と切らりけ成は成の事とまふ
 不ふりぬといふ事安あても十を安よてといふ事は切
 の事安とまふ事自みづかちる事續つづの事とまふ事の敷て
 ちよいらす一成の上とまふの事月つとてもちけり一

此後安ハ成と成らうよう一事の安成成られ成
 成運うんされハ成勝しょう也

田をす成勝しょうを成とまふ事の成合

一とまふ事成の内を成と成の事とまふ事我も
 下よ成とまふ事成の事とまふ事成入る成成中
 成と成と成入と成たの事とまふ事成と成た成
 成下よとまふ事成たの事とまふ事成後より成と
 成と成中と成入る成成と成割成入とらうと置と
 成と成り成成の事と成成成成入成出と成月の内
 入成の事と成と成成の事と成成成成と成と成と

丸茶の漆のよき

たてて置く

茶のていへる

茶のていへる

茶のていへる

茶のていへる

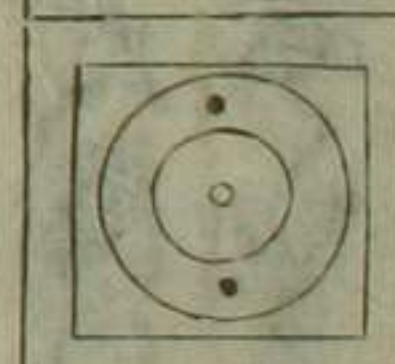
茶のていへる

茶のていへる

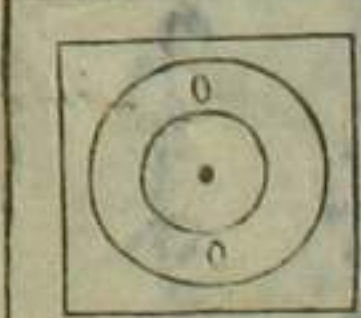
茶のていへる

茶のていへる

茶のていへる



炉ヨリ上三尺ノ真中



ミメ

あかき茶のていへる

あかき茶のていへる

あかき茶のていへる

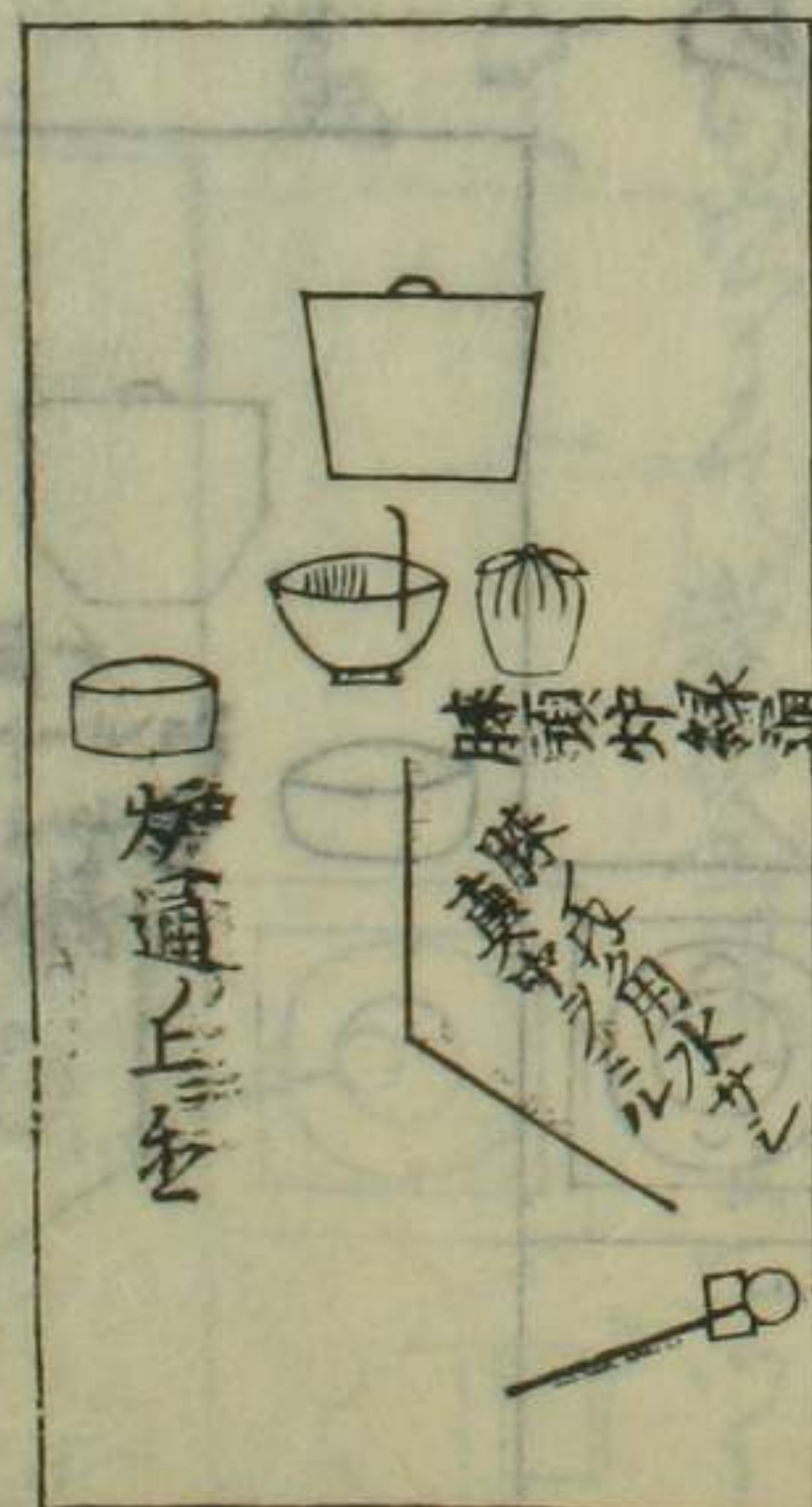
あかき茶のていへる

あかき茶のていへる

あかき茶のていへる

あかき茶のていへる

あかき茶のていへる



茶のていへる

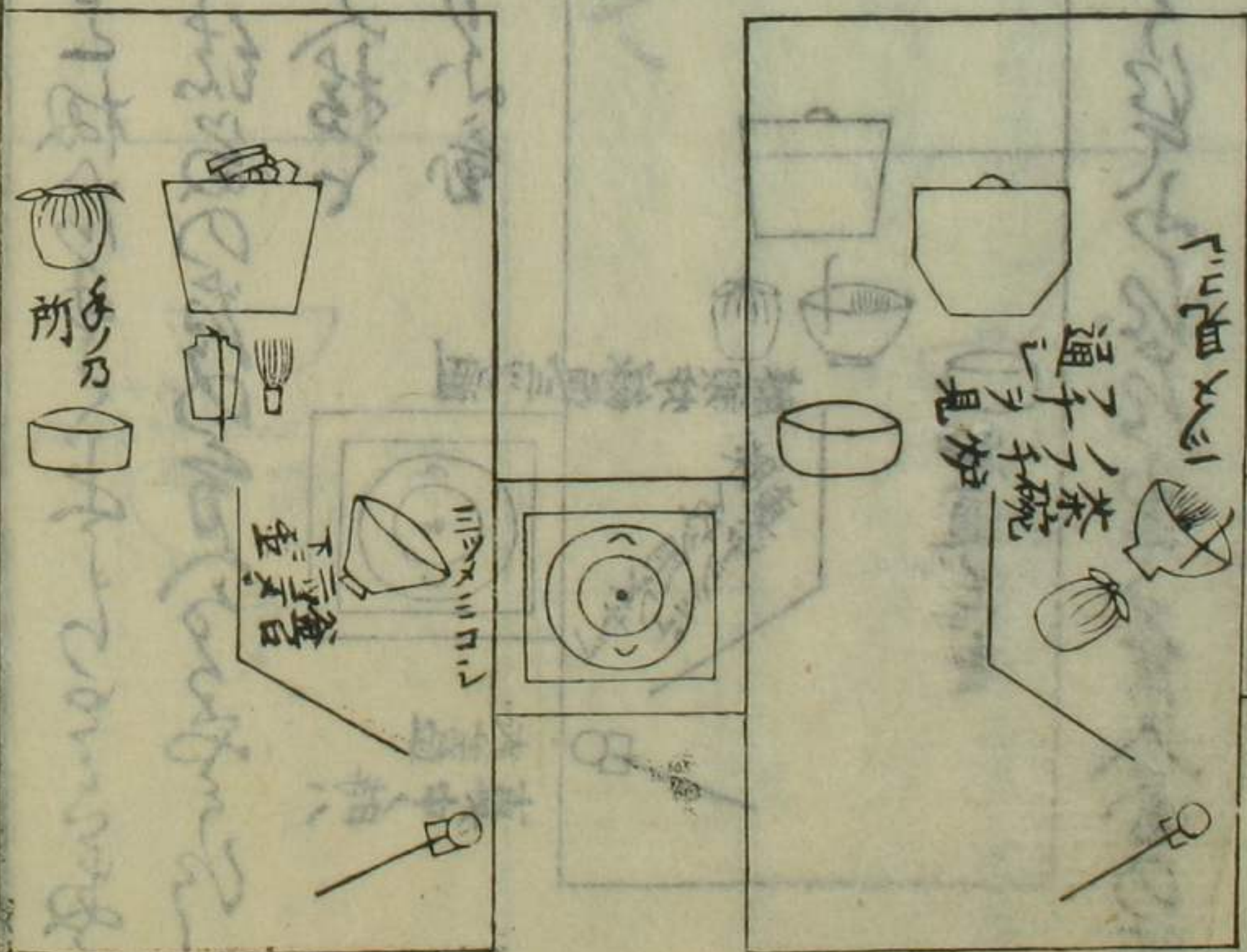
茶のていへる

茶のていへる

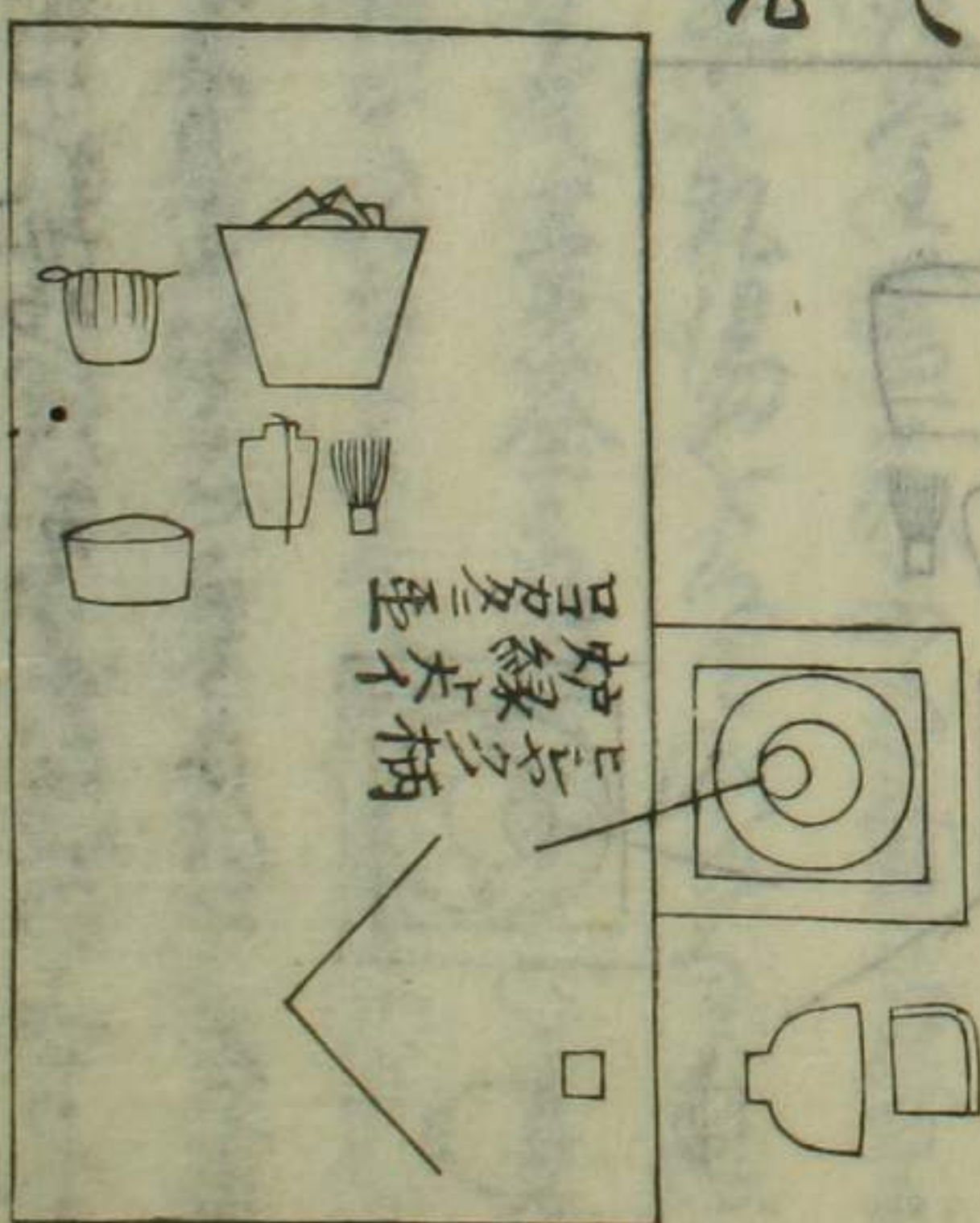
茶のていへる

あかき茶のていへる

煎丸の脱巾とちめて丸
 水多の蓋の上と二掛の
 又たへ海へた
 めく茶巾丸
 手拵の上はげ
 又たへてをき
 るたの脱巾と丸く茶の
 蓋は丸茶蓋を
 ようけ脱巾襦と
 らまきちんて
 茶碗の向と丸



引込湯のふは湯二柄抄く入てたへ扱扱後、漆は
 煎ためて脱巾と取茶の蓋とめ脱巾と襦とよきと扱
 扱ち丸茶蓋をよかけをよひて茶蓋丸茶碗又湯丸
 三ツて下は茶水拵のよらう茶巾丸よひらうとて
 又てめ又茶拵とよわけちて茶蓋全湯は二ツて
 引と茶蓋のふらうとて
 りは茶巾丸よひて茶巾丸
 茶碗は流たよ
 て引と茶巾丸
 漆は煎たて湯
 とよきとて



湯はぎめ肉ゆへ入茶巾れ端縁茶碗のうらへ
こぼれ肉とこぼれひちあてりよあていふひいて茶巾れ
あひちひてはるるあて
あてあ指のうらあけあて

茶碗れたふ

て茶入の蓋が

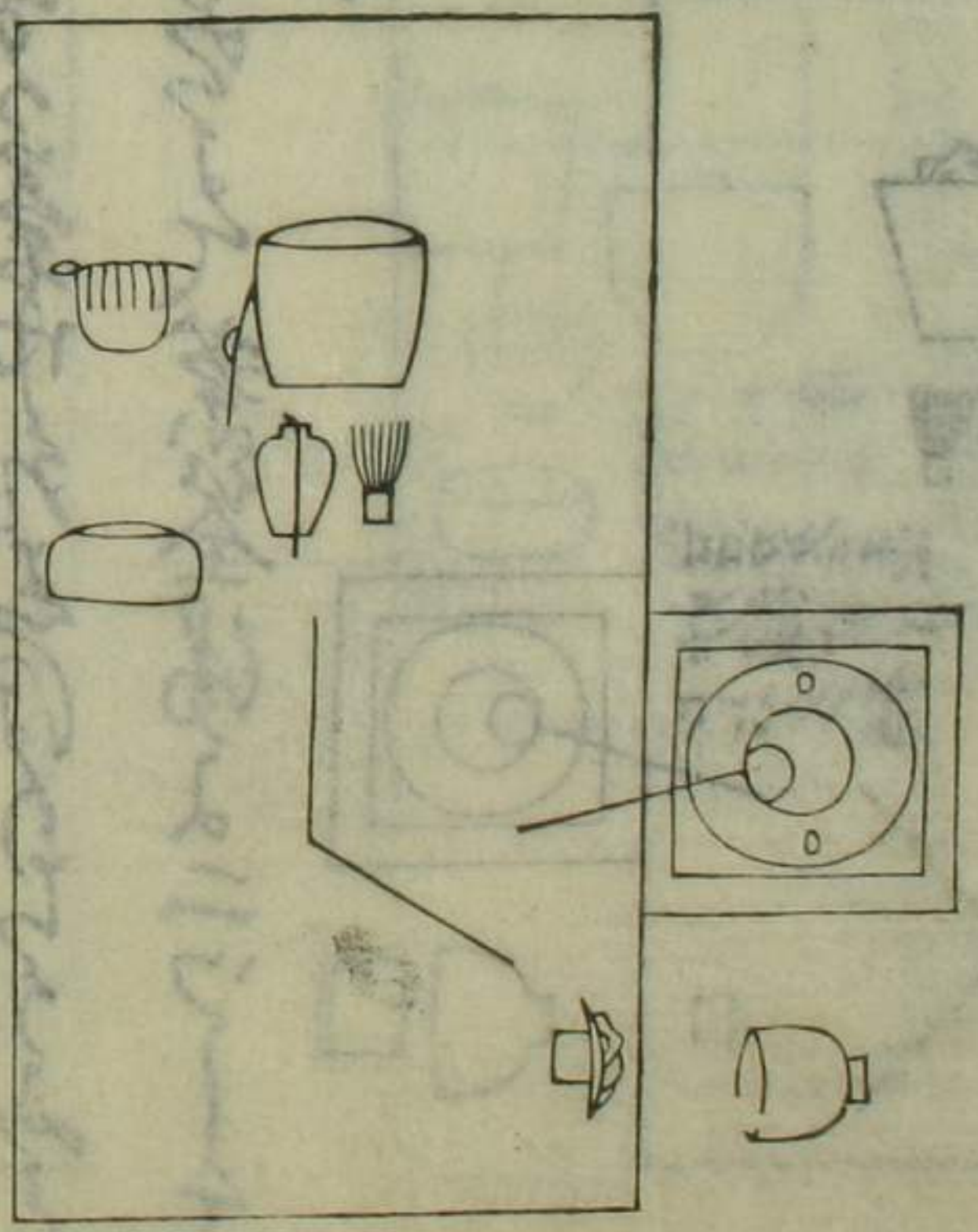
縁の角に茶碗

碗の上あて茶

とらへ入る一茶抄入口縁あてぐーあて通のりめとら

る茶碗の下よあてとらへ入る茶抄茶碗の縁

は茶碗ひいて茶入の蓋へて中へまてたて茶



碗れたあて茶碗の縁よあ

てあ茶といひけ茶碗の

縁よ茶碗あ

てあて茶入は

うげとあて柄

抄とれたる縁へ茶巾れ茶蓋あてり茶碗を腕

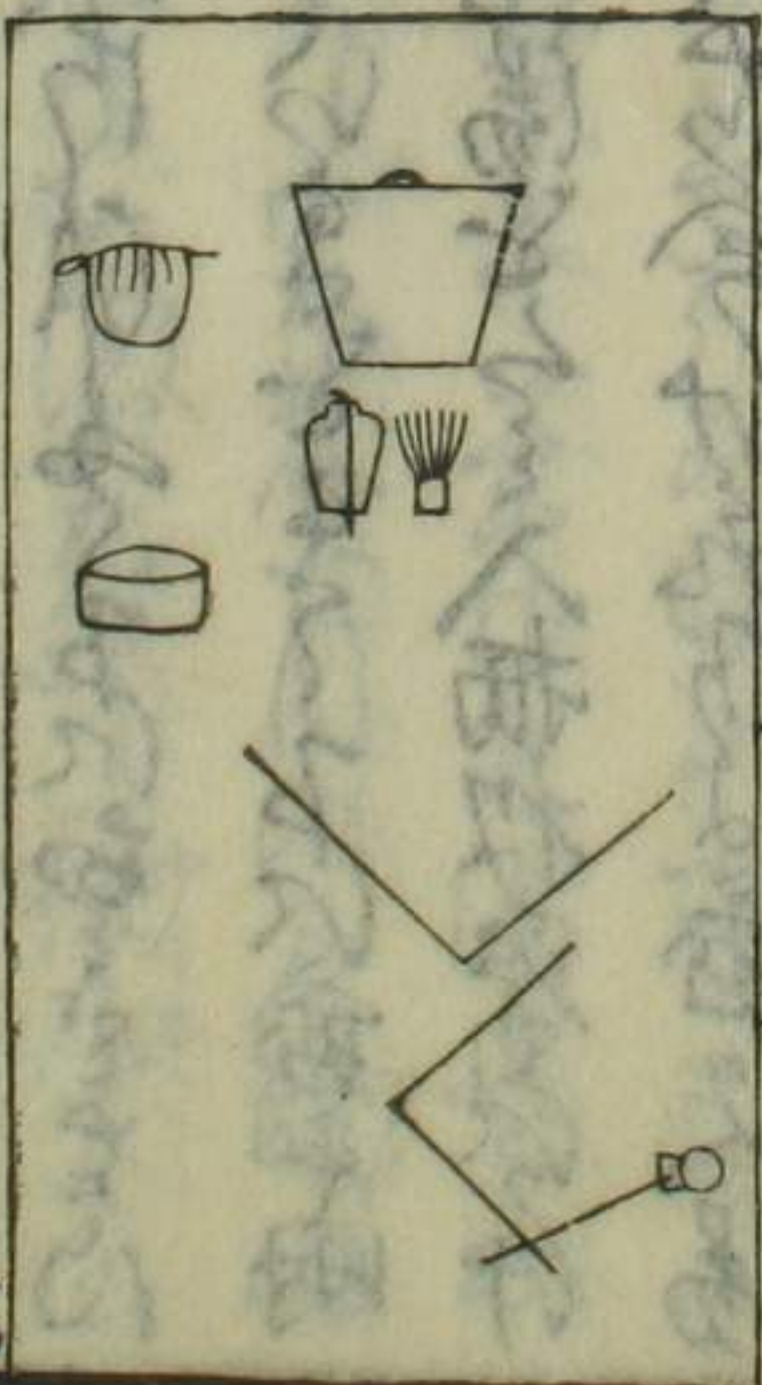
巾懐へてあひいてあて茶碗湯とらへ入るる板柄

抄茶の柄はあけとあて茶蓋茶碗のあて茶碗

のうら茶碗あてり茶蓋茶碗のうら茶碗

茶碗あてり茶巾懐より茶碗へてあて茶碗のうら茶碗

へて茶碗を茶入茶碗のうら茶碗へて茶碗茶碗あてり



あて書とてむつと付とるの茶入とては付何の茶
 らえて先茶にほのろをあるたてひや書きた
 めて水盆を傍よりつう流とめてよむ茶入を
 帳巾よりひらきおき茶入の書紙より茶口より
 まき茶入の漆のどい茶取より網と巾の書とせ
 て帳巾懐へ入景の茶と出茶入よりひら付何の茶
 碗より入とて又出水指とて水盆のうへより茶碗と茶入
 板懐より茶紙よりお茶の紙が縁書茶のうへ水
 び下巾より角小茶入より向より茶水より茶入板
 茶碗より茶入茶入より茶入付何の茶とて茶入
 付の茶碗より茶入より茶入の茶入より茶入

湯盆之置合

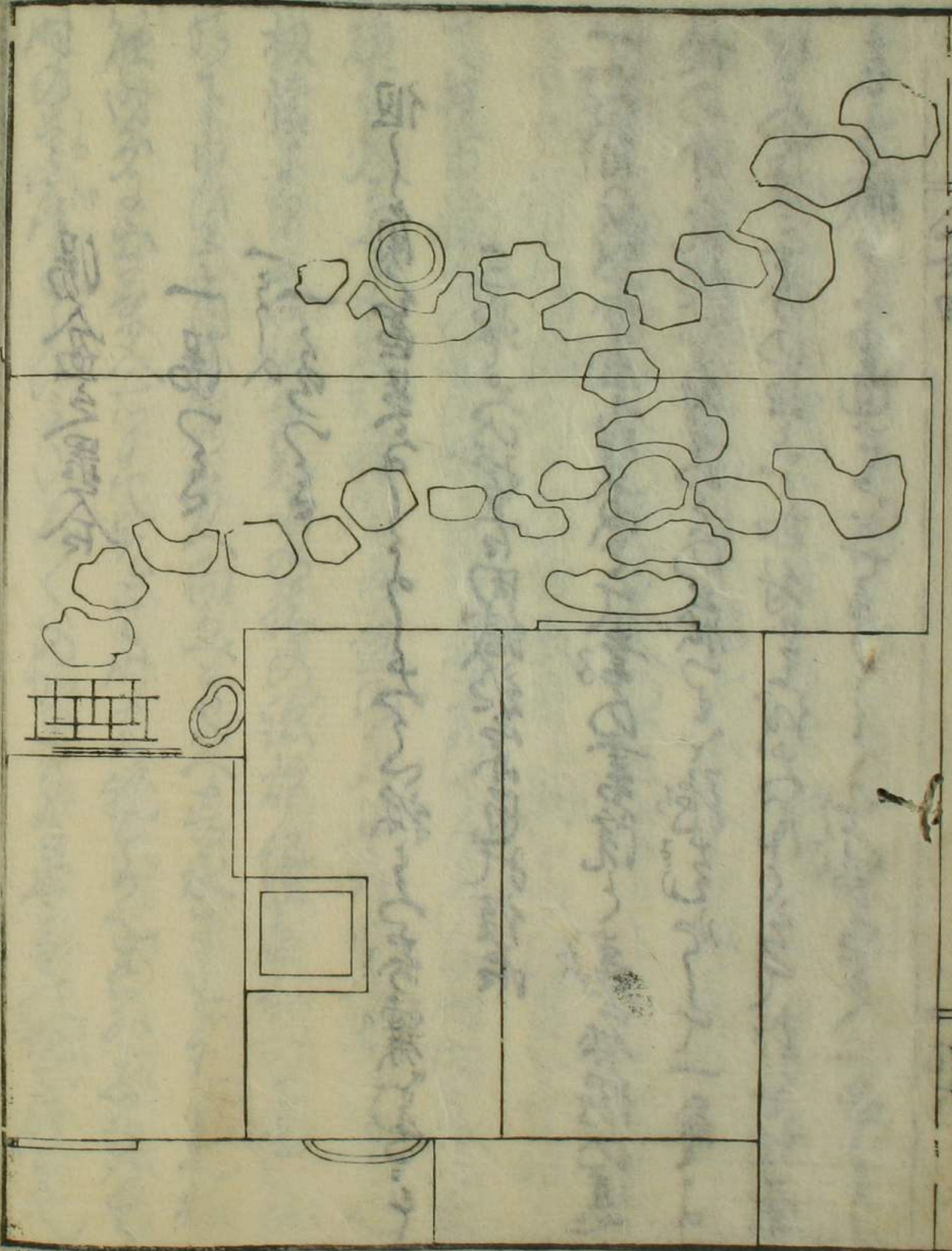
一湯つゝ

一湯つゝ

但し角小茶入より茶入より茶入より茶入

二湯つゝの茶入より茶入より茶入

一茶入の茶入より茶入より茶入の茶入より
 茶入の茶入より茶入より茶入の茶入より
 茶入より茶入の茶入より茶入より茶入
 茶入より茶入の茶入より茶入より茶入



四ノ寸二分の大月窓と付合メ二窓と大月くみ
 是古國らの作也

一、舊戦國の内帯に舊客のお後平一和のる計案合
 内帯と仰ぐまゝの叙戦と脱し圍へ入家来と掛窓後
 ろうといふ處は窓をすまひせぬりこゝに居掃へといふ
 よ外大國と對するもあり
 一、茶屋の位置も本式の大國と對へともう又勝は太月
 まする位置ありまゝの位置を魚川といふ對するの位
 居るもすなり

一、茶やのたけうのり寺門外に本式に里よりおれより
 かより海の中水よりおれに外を越すの敷に何とぞ

此は心証にけり後ある人々けり風光なりとい
わたりて後を勿論候へども数あるおぼへる事あり
あつてなり

此の文は心証にけり後ある人々けり風光なりとい
わたりて後を勿論候へども数あるおぼへる事あり
あつてなり

宗道全集之終

